



THE REPORT OF THE MIE DENTAL ASSOCIATION

三重県歯科医師会報

◆第22回三重県歯科保健大会

桑名市で「口から始める健康長寿」をテーマに

◆平成29年度食と健康フォーラム

安全で美味しい「介護食」を表彰

◆平成29年度東海信越地区歯科医師会等役員合同連絡協議会

◆平成29年度地域口腔ケアステーション対応力向上研修

◆第5回医科・歯科連携推進人材養成研修会



公益社団法人
三重県歯科医師会
<http://www.dental-mie.or.jp/>

2017 2018

12 1

No. 689

年頭にあたって 公益社団法人三重県歯科医師会会長 田所 泰	1
年頭所感 公益社団法人日本歯科医師会会長 堀 憲郎	2
第22回三重県歯科保健大会	3
平成29年度食と健康フォーラム・第9回かむかむクッキングコンクール	7
表 彰	10
平成29年度東海信越地区歯科医師会等役員合同連絡協議会	12
平成29年度社会保険指導者研修会	16
名古屋国税局管内税務指導者協議会	18
みえ歯ートネット通信（第34回日本障害者歯科学会総会及び学術大会）	19
第5回医科・歯科連携推進人材養成研修会	20
平成29年度地域口腔ケアステーション対応力向上研修	21
平成29年度第9回理事会 （みえ歯と口腔の健康づくり基本計画改定案について協議）	22
平成29年度第3回郡市会長会議（平成30年の歯科保健大会、名張開催で合意）	24
平成29年度第10回理事会 （「三重スポーツデンティスト」制度について協議）	28
医療管理（確定申告における注意点について）	30
<hr/>	
10月・11月会務日誌	31
会員消息／新入会員プロフィール	33
告 知 板（介護予防講演会）	35
会員の広場 （ ・ 第42回睦寿会総会・親睦会開催 ・ 第65回東海4県歯野球大会／三重県歯チームが優勝 ）	36
互助会の現況	38
平成29年6月・7月診療分歯科診療報酬状況	38
三重県歯国保組合&協同組合NEWS	39
編集後記	42

New Year Message 2018

年頭にあたって

公益社団法人 三重県歯科医師会

会長 田所 泰



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、新春を健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。また、平素より三重県歯科医師会の事業にご理解とご協力を賜っておりますことに対し、厚くお礼申し上げます。

今年が平成30年です。平成元年から厚生省（現・厚生労働省）と日本歯科医師会が提唱し、広く国民に呼び掛けてきた8020運動も一つの節目を迎えたこととなります。運動開始当時には、80歳で20本以上の自分の歯を有する者の割合（8020達成率）はわずか1割にも満たず、平均残存歯数は4～5本にすぎませんでした。8020運動が国民運動として大きな成功を収めた結果、17年には8020達成率はおよそ25%に達しました。その後、23年の「歯科口腔保健の推進に関する法律」の制定等、歯科保健の重要性についての理解が進んだこともあり、25年度からスタートした健康日本21（第二次）では、さらに10年をかけて8020達成率を50%にするという目標が掲げられることになりました。ところが、昨年発表された28年度歯科疾患実態調査の結果によれば、目標年次である34年を待たず、既にこれが達成されたことが明らかになったのです。80歳を超えた国民の二人に一人が20本以上の歯を有している一、8020運動を始めた頃の歯科医師たちの多くは、わずか30年後にそんな時代が到来するとは思いませんでした。

それは同時に、私たちがこれまで想像してこなかったような課題が突きつけられているということでもあります。ちょうど8020運動が始まった頃、私の母校の歯学部附属病院に高齢者歯科治療部が新設されたのですが、高齢社会の到来を見越したはずのその部署に集められたスタッフは、補綴科と歯科麻酔科のエキスパートだけでした。有床義歯と有病者への対応が必要なことは分かっていますが、80歳を超えた人々の歯をさらに保存し、機能させるための歯科医療はまだイメージできていなかったのです。

今、私たちにそうした新たな課題への取組みが求められています。在宅及び施設への訪問診療、摂食嚥下障害の診断等、フィールドの拡大に対応するとともに、萌出から70年も使い続けてきた歯をさらに延命させるための工夫も必要です。セルフケアも思うようにはできなくなってきました。唾液による自浄作用もうまく働きません。そんな条件の中で、食べる楽しみ、話す喜びを守っていくにはどうすればよいのか。従来の歯科医療の常識だけでは対応できない部分を補うために、皆が知恵を出し合っていかなければなりません。歯科医師会の中での協力・連携はもちろんのこと、学会やコ・デンタル、その他医療介護の専門職と協調しながら、新たなハードルを一つひとつ丁寧にクリアしていく。そんな地道な積み重ねこそが求められているのだと思います。

会員の皆様が歯科医療の現場で、日々様々な困難に立ち向かっていることに思いを馳せながら、少しでもその支援ができるよう、三重県歯科医師会としても全力を尽くしていきたいと思っております。

New Year Message 2018

年頭所感

公益社団法人 日本歯科医師会

会長 堀 憲郎



明けましておめでとうございます。全国の会員の皆様、そして関係者の皆様には、つつがなく新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年6月に新しい執行部が発足して半年、一昨年3月に会長に就任してから1年9カ月が過ぎました。昨年の年頭所感では「会長就任当時に歯科界全体の混乱があったものの、長年に亘る歯科界からの発信により、歯科医療や口腔健康管理の重要性について国民的な理解が進み、歯科界にも活性化の兆しが見えている。更なる活性化に向けてスピード感をもって取り組みたい」と申し上げました。

改めて、昨年を振り返れば、6月に閣議決定された国の施政方針である「骨太の方針2017」に「生涯に亘る歯科健診の充実や歯科保健医療の充実を図る」と明記されるなど、各方面からの歯科への理解と期待は更に高まっています。また9月に公表された「平成28年度歯科概算医療費」からは、決して大幅とは言えませんが、活性化の兆しが28年度も継続していることが読み取れます。平成13年度以降減り続ける傾向にあった歯科医療費は、平成21年度以降は一度もマイナスに転じることなく経過しています。

会長就任当時に掲げた「日本歯科医師会の28課題」は、昨年6月に発足した新執行部で、改めて再整理しましたが、その中には例えば最重点項目の一つとして「歯科における新しい機能、新しい技術を開発し、診療報酬改定時期以外に保険収載する仕組みを活用し、歯科界全体の更なる活性化をはかる」という課題がありました。この課題について、歯科活性化会議を立ち上げて、そこで臨産学官一体となった議論を進めた結果として、暮れの12月からの「大白歯CAD/CAM冠の保険収載」が実現しました。学会、産業界等を含むオールデンタルでの取り組みが結実したものと認識し、各方面のご尽力に感謝申し上げますとともに、まだ歯科にとっては緒に就いたばかりのこの取り組みを更に推進して参ります。

また、間もなく全容が確定する平成30年度の同時改定については、改定対策本部の方針を日本歯科医学会、日本歯科医師連盟とも共有しつつ、明確な問題意識をもって対応してきました。更に改定議論の中で、いくつかの重要な懸案事項についても、その解決に向けて取り組んでいるところです。今年4月からは同時改定の結果を踏まえ、新しい仕組みのもとで、歯科からの医療、介護サービスの提供が円滑にできるように対応を進めます。

現執行部は「新しい歯科医療提供体制の確立と推進」「日本歯科医師会の組織強化」「歯科医療従事者の環境の充実・向上」という三つの会務執行方針の柱を掲げています。三つの柱には20を超える具体的な課題がありますが、その中には「超高齢社会の疾病構造にあった新しい歯科病名の検討」などの他、「歯科における国際戦略の展開」「若い人材の登用」や「ナショナルデータベースの歯科からの活用」といったチャレンジングな課題も存在します。ナショナルデータベースに関しては、既に日本歯科総合研究機構が、実に230万件の医科と歯科のレセプトを突合分析し「歯の数が多いほど医療費が低い」との結果をまとめました。今後も広く知恵を結集して、これらの課題に取り組むしたいと思います。

日本歯科医師会は、国民の健康と生活を預かる医療人の集団として、凛とした品格をもった組織であることを旨とし、今年も創意工夫と柔軟な発想をもって、歯科界の更なる活性化に向けて邁進して参ります。本年が皆様にとって良い年となり、また歯科界の飛躍の年となることを祈念してご挨拶いたします。

第22回 三重県歯科保健大会

平成29年11月3日（金・祝）
NTNシティホール



11月3日（金・祝）、第22回三重県歯科保健大会が開かれた。好天にも恵まれ、会場となった桑名市のNTNシティホール（桑名市民会館）には、県内各地から「いい歯の8020コンクール」や「歯と口の健康週間事業」の受賞者が、晴れやかな表情で続々と参集した。ロビーでは日歯のPRキャラクターよ坊さんをはじめ、桑名市のゆめはまちゃん・いなべ市のうめぼ〜や・東員町のとー馬くん・木曾岬町のトマッピーらが子どもたちを出迎え、人気を集めていた。第一部で主催者の一人として挨拶に立った三重県・鈴木英敬知事は、県の歯科保健条例（みえ歯と口腔の健康づくり条例）に基づいて実施されている在宅歯科医療の推進等、行政と歯科医師会が協調した取組みをさらに推進し、県民の健康長寿実現につなげたいとの意欲を示した。表彰式では「親と子のよい歯のコンクール」県代表の浜地佑佳さん・怜愛さん（松阪市）が中央審査会で優秀者に、「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」幼稚園の部県代表の奥田友里愛さん（伊勢市）が全国審査で優秀賞に入選したことも報告された。第二部ではTV等でも活躍している九州歯科大学の柿木保明教授が特別講演。自身のくも膜下出血による闘病生活の経験談も交えながら、口から食べることの重要性を説くとともに、口腔乾燥のリスクについて解説。睡眠薬を含めた多剤併用の問題点についても警鐘を鳴らした他、舌診のポイント等を紹介し、歯と口の健康を通じて、自然治癒力を賦活化することを推奨した。

★ 歯と口の健康週間事業表彰

親と子のよい歯のコンクール（最優秀）
浜地佑佳さん・怜愛さん（松阪市）

浜地佑佳さん・怜愛さん
親子は中央審査会でも
優秀者に選ばれました！



よい歯の児童生徒表彰（最優秀）
森本実芙袖さん（松阪市）



歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール（最優秀）

（左から）【幼稚園】奥田友里愛さん（伊勢市）【小学校高学年】宮地莉々華さん（紀北町）
【小学校低学年】橋野一心さん（志摩市）【中学校】加藤ひろなさん（鈴鹿市）

※ 【特別支援学級】村上萌香さん（亀山市）は当日ご欠席でした。

奥田友里愛さん（幼稚園）の作品は
全国審査でも優秀賞に選ばれました！



★ いい歯の8020コンクール表彰



三重県知事表彰
坂井厚実さん（名張市）



三重県知事表彰
東 徹さん（伊賀市）

三重テレビ放送表彰（おしどり賞）
松岡吉高さん・市子さん（桑名市）

- ※ 三重県知事表彰受賞者のうち、勝村知世子さん（名張市）は写真掲載ご辞退、津谷ふみさん（松阪市）、中村喜代子さん（いなべ市）は当日ご欠席でした。



★ 三重県歯科保健文化賞表彰

木曾岬町

木曾岬町は、関係機関、幼稚園・保育園、学校、各種団体と連携し、町全体で口腔の健康づくりに取り組み、乳幼児にとどまらず妊産婦や成人、高齢者まで、幅広く歯科保健事業を推進し、それぞれのライフステージに応じた歯と口の健康増進に貢献した功績が認められました。

特別講演：口から始める健康長寿

九州歯科大学老年障害者歯科学分野・柿木保明教授



平成25年にくも膜下出血で倒れて入院し、闘病生活を余儀なくされた。理学療法を受ける一方で漢方薬や鍼灸、アロマ療法等も併用することにより、1年後には台湾で講演を行うまでに社会復帰できたが、その過程で多くのことを学んだ。

第一に、自然治癒力を高めることやストレスを解消することが健康長寿に大切であると考えようになった。意識不明とされていた時期には話すことも動くこともできなかったが、周囲で交わされる会話の内容が理解できること、痛みを感じることを経験した。その際のストレスは相当なもので、看護する側に立った場合には十分な配慮が必要であることが分かった。また、健康長寿を考えるに当たっては、人間は死ぬ前には必ず障害を持つことを理解しなければならないことを知った。

口腔乾燥による弊害は多岐にわたり、不定愁訴の原因になりうる。抗うつ薬、睡眠導入剤等は口腔乾燥の副作用があるので、できる限り内服は避けたい。一方で、加齢に伴い必要な水分摂取量は減少するので、水分補給が過度にならないように配慮する必要がある。同様に運動不足と栄養過多も健康に悪影響を及ぼす。食事の際に唾液は食塊形成や味を感じるために必須で、嚥下にも影響を及ぼすが、水分過多は口腔内、鼻腔粘膜の浮腫を起し、咬合にも影響するため、喉の渇きを感じた時に水分を摂取するよう心掛けたい。

口腔内は食事をする、しないにかかわらず清潔

に保つことが重要である。経管栄養を40年受け一度も歯磨きをしなかった症例の口腔内環境は凄惨なものだった。人間の進化の過程では、最初に消化管が発生したと考えられている。そのため消化管を正常に維持することは非常に大切なのである。

摂食する際に最初に用いる臓器は口腔であり、経口摂取を行わなくなると消化管粘膜の萎縮が生じる。消化管粘膜が萎縮すると栄養摂取が困難となる。経口摂取は生きていくうえでなによりも必要なことだ。舌に機械的な刺激を与えるとグレリンの分泌が促進されることが分かっている。グレリンは胃粘膜から分泌される食欲増進ホルモンである。唾液分泌が減少すると唾液は白く見えるようになる。口腔乾燥がある人は寿命が短いという研究結果がある。認知症患者は口腔乾燥を自覚しない場合があるので注意が必要である。降圧薬は口腔乾燥を起す。ガイドラインは血圧を140以下にコントロールすることを推奨しているが、老年医学会では年齢別に適正な血圧を定めており、必要以上の降圧薬の内服は控えたいものである。

睡眠導入剤は神経伝達を抑えるため、口腔乾燥だけでなく、反射も抑え、誤嚥性肺炎のリスクが上昇するし、むくみも生じやすくなる。むくみは筋のこりを引き起す。日中の活動量が少ない人は睡眠時間が少なくても大きな問題はないので、睡眠導入剤の使用も必要最小限にとどめたい。

舌苔が付くのは糸状乳頭が長いせいであり、消化管が弱っているために起きる。漢方薬の半夏瀉心湯は舌の症状改善に効果がある。野菜には身体を冷やすものと温めるものがあり、温める野菜を食べると血行が良くなる。

食べることは生きることに必要な営みであり、食べるためには舌の潤いと刺激が必要である。口腔内環境を整えることは健康長寿を得るために大切である。

(広報情報委員・佐藤文仁 記)

平成29年度 食と健康フォーラム

第9回かむかむクッキングコンクール

平成29年10月9日（月・祝）

三重県歯科医師会館



10月9日（月・祝）、三重県と三重県歯の共催による平成29年度食と健康フォーラムが開かれ、“安全で美味しい「介護食」”をテーマとした第9回かむかむクッキングコンクールの最終審査及び表彰式が行われた。9月の1次審査で70点の中より選ばれた11点が審査対象となり、各応募者のプレゼンテーション及び実食審査の結果、最優秀賞に長尾哲英さんが、優秀賞に浜田裕子さんと北村芽衣さんが、審査員特別賞に三宅 花さんがそれぞれ選ばれた。

また、昭和大学歯学部小児成育歯科学講座の井上美津子客員教授が、小児期からの咀嚼習慣の育成と歯・口の健康づくりの重要性について特別講演。参集した130名近くの聴衆は熱心に聴き入っていた。

（公衆衛生委員・東 千尋 記）

健康長寿は小児期の食育から

～子どもの頃からの咀嚼習慣の育成と歯・口の健康づくりの大切さ～

昭和大学歯学部小児成育歯科学講座・井上美津子客員教授

■ 歯科実態調査で8020達成者が51.2%

8020運動が始まった昭和62年当時、8020達成者の割合は8.2%に過ぎなかったが、その後、順調に増加し、28年にはついに50%を超えた。この背景には、国民の口腔衛生意識の高まりや、医療提供側において予防への対応が重視されてきたことがある。健康長寿実現への歯科的貢献として「噛める歯が残っている人ほど健康で長生きできる」という研究結果が挙げられる。噛める歯が残っていると低栄養を避けることができるし、「周囲の人と同じもの」「自分の好きなもの」が食べられれば食の楽しみが保たれ、QOLの向上につながる。80歳で20本自分の歯を残し、美味しく食べるには、生活習慣や咀嚼習慣が形成される小児期からの歯・口の健康づくりが非常に重要である。

■ 食育推進の流れ

平成17年に「食育基本法」が制定され、第1次食育推進基本計画（18～22年）が実行された。これを受け、歯科関連4団体（日本歯科医師会・日本歯科衛生士会・日本歯科医学会・日本学校歯科医会）は、19年に「食育推進宣言」を出し、国民的運動である食育を推進・支援するとした。

20年からは厚労省で「歯科保健と食育の在り方に関する検討会」が開かれ、歯科保健の立場から食育推進の必要性を示すとともに、今後の取組みについて、各ライフステージにおける食育の在り方や関連職種における歯科保健と食育の推進方策、新たな視点を踏まえた歯科保健対策の推進等を提言。27年7月の報告書では行動目標としての「噛ミング30（サンマル）」を提唱した。

第2次食育推進基本計画（23～27年）では、①生涯にわたるライフステージに応じた間断の無い食育の推進 ②生活習慣病の予防及び改善につながる食育の推進 ③家庭における「共食」を通じた子どもへの食育の推進―が重点事項と位置付けられた。「共食」には、①卓を囲むことで家族の絆や親子関係を育む ②親や兄姉と一緒に食べることにより、新しい食材や「食べ方」を学習する ③美味しさを共感することにより、食べる意欲を高め、偏食等を防ぐ ④増齢とともに共食の場が家庭から保育園・幼稚園や学校へと広がり、マナーの学習につながる―等の効用が期待されている。

第3次食育推進基本計画（28～32年）では、歯科からの目標として「ゆっくりよく噛んで食べる国民を増やすこと」が掲げられた。第2次計画における「よく噛んで味わって食べる等の食べ方に関心のある国民を増やす」から、実践する人を増やすという目標に進め、ゆっくりよく噛んで食べることにより肥満を防止し、健康寿命につなげる「食べ方」の習得を推進するとしている。

■ 少子化・核家族化の食育への影響

近年、少子化・核家族化の食育への影響が懸念されている。具体的には、①家族数の減少による共食の欠如（父親不在による団らんの不足）②生活の多様化による食生活パターンの多様化 ③子どもの嗜好偏重の食事や栄養・機能面のみを重視した食事による意欲の減退―等である。

27年に日本歯科医学会重点研究委員会がまとめた「子どもの食の問題に関する調査」によると、小児歯科専門機関に行ったアンケートでは、咀嚼に対する相談は67.4%、摂食嚥下障害に関する相談は42.6%、子どもの食に関する相談は60.1%の医療機関が受けており、咀嚼や食べ方（よく噛まない、時間がかかる、偏食、遊び食べ等）に関する相談が多かったと回答された。また、2～6歳の保育園・幼稚園に通っている園児の保護者へのアンケートでは、53.8%の保護者が子どもの食事について心配ごとがあると答えている。具体的には、子どもが食べやすい食事の作り方が分からな



いとか、忙しくて手をかけてあげられない等の悩みが多く、▽兄弟がいない▽離乳期のトラブルがある▽少食である―といった子どもほど、食に関わる訴えが多い。

子どもの食の問題に対応する方法には、機能面及び環境面からのアプローチがある。機能面からは、歯の生え方や口唇・舌の動きを観察するとともに、食形態や調理法を工夫し、口唇閉鎖や一口量の調整等のアドバイスを行う。機能発達や学習能力に個人差があることを配慮し、噛みにくい食材ばかりでは食欲が育たず機能も伸びないこと等を説明する。環境面では、日常生活のリズムを整え、食事や間食の規律を調整し、食べる意欲を育てる環境づくり（楽しい雰囲気、家族や友だちとの共食、美味しさの共感、食事量を強要しない）や、食材の準備や調理への参加により、食べ物や食事への関心を高めることが大切である。

■ 小児期の食べ物による事故防止

食べる力（咀嚼）が育っていないと、よく噛まずに丸呑みするため窒息のリスクが高まり、胃腸にも負担がかかる。また、口いっぱい頬ばり早食いと過食や肥満を招く。

食べ物による窒息事故を予防するためには、①低年齢児では乳歯の生え方や噛む力に合わせた食べ物を与える ②食べ方によってはほとんどの食品が窒息の原因になりうることを周知する ③自分に合った一口量を調整できるようになるために離乳食からの食べ方支援を行う ④幼児期・学童期を通じて「よく噛む」習慣を身に付けるよう支援する―等が求められる。

★ 第9回かむかむクッキングコンクール審査結果



最優秀賞：三重の郷土料理 秋刀魚寿司
～のど越し良く～
大川学園三重調理専門学校1年 長尾哲英



優秀賞：お寿司ゼリー
大川学園三重調理専門学校1年 浜田裕子



優秀賞：かぼちゃとすり身の蒸し物
三重県立久居農林高等学校3年 北村芽衣



審査員特別賞：2層の野菜ムース
三重県立明野高等学校3年 三宅花

表彰

2017

叙勲・瑞宝双光章

吉川 潔氏（桑員）

永年にわたり学校歯科医として、また地域の歯科医師として、学校歯科保健の充実や地域の口腔衛生の向上に献身的に取り組み、今なお自己研鑽に励む姿勢が地域の人々はもとより、学校関係者や歯科医師会関係者からも敬愛されていることが認められており、今回の受賞となりました。

元 桑員歯科医師会会長

厚生労働大臣表彰

田所 泰氏（伊勢）



平成12年から三重県歯科医師会役員を歴任し、県民の「生涯を通じた歯の健康づくり」を目指して歯科保健事業を実施した他、県内のがん患者の口腔衛生状態の向上によるがん治療合併症等の予防・軽減を図る「がん診療医科歯科連携事業」の体制整備をはじめ、様々な疾病を持つ患者が、より良い歯科医療を受けることができる社会基盤の構築を目指し、医科歯科連携事業の推進に貢献した功績が認められました。

現 三重県歯科医師会会長

文部科学大臣表彰

橋本 敏氏（津）



永年にわたり学校歯科医として、学校関係者との綿密な連携のもとに児童・生徒の口腔衛生の啓発に尽力した功績が認められました。また、津歯科医師会役員として学校歯科健診の質の向上に取り組んだ他、三重県歯科医師会役員として歯科衛生士養成学校のカリキュラムの充実に当たっても大きく貢献しました。

元 三重県歯科医師会副会長／元 津歯科医師会会長

日本歯科医師会会長表彰

永田健一氏（四日市）



県民の生涯にわたる心身の健康に寄与する質の高い歯科医療を提供するために、地域医療を担う歯科医師等が常に研鑽に努め、その知識・技術を高めるべく関係機関・各種学会等との連携に努めるとともに、その成果を広く県民に還元し、QOLの向上に尽力した功績が認められました。

元 三重県歯科医師会副会長／前 四日市歯科医師会会長

三重県健康福祉関係功労 公衆衛生事業功労者知事表彰

一般社団法人 松阪地区歯科医師会

県下の歯科医師会で初めて在宅訪問歯科健診事業を開始する等、在宅高齢者等を対象とした歯科保健・歯科医療提供のパイオニアとして県内各市町の模範となる実績を挙げた他、乳幼児歯科健診の充実やフッ化物洗口の普及等、行政と緊密に連携した歯科保健の推進に尽力した功績が認められました。

三重県歯科衛生功労者知事表彰

鎌谷義人氏（津）



津歯科医師会の役員として、歯の健康展等の企画・運営に積極的に協力し、口腔がん検診を実施する等、市民の口腔衛生意識の向上に貢献した功績が認められました。

元 津歯科医師会会長

山本 修氏（鳥羽志摩）



鳥羽志摩歯科医師会の役員として、地域住民の歯科健診や歯科相談を行う他、障害者施設での健診に取り組む等、地域の歯科保健の向上に貢献した功績が認められました。

現 鳥羽志摩歯科医師会
会長

三重県教育功労者表彰



北川弘二氏（鈴鹿）

永年にわたり学校歯科医として、学校や地域、家庭における歯科保健活動の重要性を説き、う蝕予防と口腔衛生の向上に貢献するとともに、鈴鹿歯科医師会会長として、地域住民を対象とした歯科啓発活動の推進に尽力した功績が認められました。

前 鈴鹿歯科医師会会長

三重県学校保健功労者表彰

木村和芳氏（桑員）



学校歯科医として、映像教材等も活用しながら、う蝕予防の必要性を分かりやすく解説する等、歯科保健の重要性と認識を深める活動に尽力した功績が認められました。

岡村浩一氏（伊勢）



学校歯科医として、歯と口の健康増進、健康管理の高揚等について、学校関係者との連携のもと、口腔衛生の普及と向上に尽力を重ねた功績が認められました。

平成29年度 東海信越地区歯科医師会等 役員合同連絡協議会

平成29年10月14日（土）
ホテルメルパルク長野



10月14日（土）、長野市内で東海信越地区歯科医師会等の役員合同連絡協議会が開かれた。この協議会は東海信越地区6県歯及び歯科医師国保組合、歯科医師連盟の役員が一堂に会するもので、三重県歯の他、三歯国保組合や三歯連盟の役員らも参加した。当番県である長野県歯・春日会長の挨拶に続き、日歯からは柳川副会長（静岡県歯会長）が、日歯連盟からは渡邊副会長（前・愛知県歯会長）が来賓として挨拶。石井みどり参議院議員も登壇し、22日（日）

の投開票が迫った衆議院選挙に向け、与党への支援を呼び掛けた。全体会議では、日歯・村岡専務理事、日歯連盟・久保田理事長がそれぞれ会務報告を行った。その後、県歯7分科会の他、国保組合、連盟に分かれて意見交換。日歯をはじめとした中央組織の役員も参加し、熱のこもった協議が行われた。

第1分科会（時局問題）



第1分科会には日歯から柳川副会長（静岡県歯会長）と村岡専務理事が出席。▽医療介護総合確保基金▽口腔がん検診の取組み▽病院歯科との連携の進め方▽災害時の相互協定▽平成30年度同時改定に対する日歯の対応—等について協議した。

医療介護総合確保基金は創設から3年が経過したが、年を追うごとに国の内示額が厳しくなっており、従来の事業で基金に振り替えた事業や今後

の歯科保健医療推進に支障のないように、各県歯間の情報交換と日歯への働き掛けを行うこととした。口腔がん検診については、積極的な推進を図っている愛知県歯を中心にそれぞれの取組みが報告された。国や県レベルで行政を動かすのは難しいのが現状だが、むしろ市町レベルでの働き掛けが奏功しているとの報告もあり、参考になった。病院歯科との連携については、病院勤務の歯科医師に対する歯科医師会への入会勧奨の取組み等も含め各県の状況が報告された。大規模災害時の広域支援については、東海信越地区では既に災害時等の相互応援に関する協定書及び覚書が締結されているものの、その実効性については疑問があり、平時の連携も含め改めて検討することとなった。平成30年度同時改定については、日歯の柳川副会長、村岡専務理事から、改定に向けて様々な方面から取り組んでいる旨の説明があった。

第2分科会（医療管理・厚生共済）



第2分科会には、日歯から古橋常務理事と三井常務理事が出席。古橋常務理事からは、①日歯の終身年金の一時払い ②日歯福祉共済の減額計画 ③共済に関するメリットの配布予定一等について、三井常務理事からは、①治療器具使い回し報道対策 ②税制改正要望 ③医療法改正によるインターネット上の医療広告への監視強化 ④歯科衛生士・歯科技工士の人材確保一等について、それぞれ報告があった。

協議では、広告規制について保健所や県行政に任せきりになっている現状もあり、非会員への対応や研修会を通じた会員への周知等が必要との声が聞かれた。会員を守るための各種セーフティ

ネットについては、▽静岡県歯のHIV患者の治療における医療従事者の特別加入制度▽新潟県歯のクレーム対応費用保険▽三重県歯の針刺し事故補償プラン等の取組み一等が報告された。コ・デンタルスタッフ等を対象とした職業紹介・斡旋については、SNSの活用やスマホからの登録の取組み等が紹介された一方で、斡旋業者の紹介料についてのトラブルが増加しているとの報告もあった。患者からの医療相談については、県により対応は様々で、保健所による立入検査についても地域差が大きいことが分かった。歯科技工士需給問題については、厚労省の予算を活用して現行の養成学校からの問題抽出や啓発活動を行う予定であること等が日歯から報告された。現在、40歳以上の歯科技工士が7割を占めており、CAD/CAMを含めたデジタル化の進展・普及と需給のバランスが課題となっているようである。歯科衛生士需給問題については、各県歯から様々な取組みが紹介された。日歯も歯科衛生士養成学校卒業時に歯科衛生士バンクに登録するシステムの構築を進めているところだが、個人情報保護対策等が課題となっている。

第3分科会（学術）



第3分科会には、日歯から佐藤理事が出席し、Eシステム教材コンテンツでの研修ポイントの取得方法や、認定・修了基準の変更等を検討していることが報告された。これは、日歯生涯研修制度への会員の参加率増加と研修内容の充実を目的と

しており、以前より検討されている歯科医師の資質向上と歯科の専門医制にも関係する事項である。歯科専門医制では、諸課題の解決に向けた第三者評価機構が今年度中に設置される予定で、従来からの歯科医学会各分科会の専門医とは別の、地域包括ケア・病院歯科・在宅医療等の社会ニーズに応じた歯科の新たな専門医が想定されているようである。さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた委員会の設置や、国際オリンピック委員会による講演会の開催予定も併せて紹介された。

協議では、▽各県主催の研修会・講演会等におけるオンデマンド配信の状況▽施設基準を満たす外来環の研修会▽企業セミナーとの付き合い方▽

会員の学術研鑽を活性化するための取組み▽県歯における学術研修事業の方向性▽がん医科歯科連携事業―等について幅広く情報を交換。DVD講習やオンデマンド配信では講師の了解や二次配布を行わないこと等への配慮が必要であることを確認。がん医科歯科連携事業では、今年度から厚生労働省の委託事業ではなくなったことを契機に、各県独自の講習内容や開催方法を認める等、柔軟

な対応を日歯に要望するとともに、口腔がん検診等の普及に向けた新たな取組み等について意見を交わした。

なお、11月には、都道府県歯学術担当理事連絡協議会が開催される予定で、日歯生涯研修制度の変更点（Eシステムの運営方法）等についての説明が行われる見込み。

第4分科会（地域保健等）



第4分科会には日歯から高野常務理事・小玉常務理事・有松理事が出席し、▽保険者・個人へのインセンティブの推進▽データヘルス計画▽特定健診・特定保健指導▽認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）―等について報告があった。

協議では、①新総合事業への対応 ②障害者歯科施設健診事業 ③在宅歯科医療連携室の設置状況 ④各県における障害者歯科医療提供体制の取組み

⑤口腔機能検査 ⑥糖尿病における医科歯科連携 ⑦各県における国公立大学及び私立大学の定期的歯科健診の状況―等様々な課題について活発な情報交換が行われた。障害者歯科については、各県とも協力医を募り研修・診療見学等をもとに認定するとともに3～5年ごとの更新制度を採っており、障害者施設への健診事業も活発に行われている。しかしながら、障害者歯科センターがない地域では、病院歯科がその役割を担っているものの、十分な医療提供には至らず地域差が大きい。三重県の「みえ歯ートネット」事業も現在118医療機関が登録しているが、研修会への参加率も含め課題が多い。また、日本糖尿病協会認定の歯科医師登録医数は他県に比べて三重県では圧倒的に少ないのが現状である。がん連携だけでなく糖尿病に関しても歯科が貢献可能な分野であり、今後一層の周知に努めたい。

第5分科会（医療保険）



第5分科会には日歯から遠藤常務理事と山口理事が出席。遠藤常務理事はデータから見た診療内

容の変化について解説。診療報酬の内訳が、義歯や歯冠修復から医学管理・歯周基本治療・在宅医療へ移行してきていることを踏まえて、施設基準の届出状況やかかりつけ歯科医機能に対する日歯の考え方が示された。また、社会保険関係会務報告として堀執行部における課題と対応が示された他、中医協関係では主に薬価制度の抜本改革の検討スケジュールについて解説があった。山口理事からは支払基金業務効率化・高度化計画の概要について説明があり、行政指導及び監査については臨床の現場に即した指導を行うよう強く求めている。

きたいとの姿勢が示された。

協議では、各県歯から提出された▽施設基準の届出▽個別指導における事務官からの指摘一等、7議題について意見交換が行われた。特に「か強診」については、長野県では23.3%の歯科医療機関が届け出ており、三重県の10.5%という数字は大きく見劣りがする。「か強診」取得のハードルと

考えられる訪問診療については、訪問診療を行う意思のある医療機関に各施設に協力医として登録してもらおう等して振り分けている地区もあるとのこと。三重県でも施設基準取得推進に向けてなお一層の取組みが必要であると感じた。また、個別指導については各県での実態に隔りがあり、今後さらに各県の連携を図っていきたい。

第6分科会（広報・調査）



第6分科会には日歯から小山常務理事が出席。第一次堀執行部で会計担当だった経歴を活かし、費用対効果も含めた日歯広報活動の見直しを進めているとのこと。直近の事業では日歯Facebookアカウントの開設や、歯学部学生をターゲットにした「シカ医のうた」の公開等が紹介された。FacebookについてはSNSを活用している日歯会

員が拡散（シェア）することで国民の啓発につながるようなコンテンツ作りを求める声があった。

協議では、各県歯が広報活動における様々な取組みを紹介。TV・新聞等の従来型マスメディアについては、うまく人脈が築ければ比較的安価での広報活動が実現することもあるが、必ずしも継続性が担保されないのが実状のようである。SNSを含めたインターネットを活用した広報は、各県歯とも近年それぞれの特色を活かした事業を展開しており、参考になる部分も多い。一方で必ずしもコスト削減につながるわけではなく、その効果についても評価しづらい部分もあるのが現状だ。

その他、求人・求職についてのマッチングシステムや、女性歯科医師支援等、広報事業の枠を越えた事業についても各県担当者が様々に関わっていることが報告された。

第7分科会（総務・災害・警察）



第7分科会には、日歯から瀬古口常務理事が出席し、8月に開催された都道府県歯災害・警察歯科担当理事連絡協議会及び第16回警察歯科医会全国大会の内容を含め、今後の方向性等が報告され

た。協議では、▽発災時の災害応急対策活動▽災害歯科コーディネーターの育成▽警察歯科に係る表彰制度▽災害安否確認の実施基準▽災害歯科保健医療協議会▽災害時における東海信越地区歯科医師会としての対応一等について意見を交わした。

三重県からは、大規模災害時の会員と県歯及び郡市会との連絡手段としての「SECOM安否確認サービス」の活用状況を紹介し、年間使用料や訓練内容の概要、登録会員数や返信率等に至るまで詳しく報告した。他県の医療関係機関との連携や協定は、各県の地理的地形的条件により種々の課題が生じる。今後、東海信越の枠組みだけでなく近隣県との協定にも目を向けることが求められる。

平成29年度 社会保険指導者研修会

平成29年10月16日（月） 日本教育会館 一ツ橋ホール



10月16日(月)、東京・一ツ橋の日本教育会館で平成29年度社会保険指導者研修会が開かれた。この研修会は、毎年この時期に厚労省と日歯の共催により開催されているもので、全国から厚労省・支払基金・国保連合会・歯科医師会等の関係者が参集する。今年度、三重県歯からは大杉副会長・前田常務理事・鳴神理事・川瀬理事・浜瀬理事が出席した。午前の部では地域包括ケアシステムを中心とした地域歯科医療について、厚労省保険局・小椋歯科医

療管理官と日歯・遠藤常務理事がそれぞれ講演。午後からは、大垣市の高齢介護課長が地域包括ケアシステムの構築について講演した他、日歯・佐藤副会長による講演「介護保険制度や地域医療の抱える問題」や、東久留米市及び大森歯科医師会からの事例紹介が行われた。

(理事・川瀬哲人 記)

冒頭、厚労省・鈴木俊彦保険局長と日歯・堀憲郎会長がそれぞれ挨拶に立った。鈴木局長は、28年改定では、かかりつけ歯科医機能や口腔機能管理の評価及び充実を行ったことを説明。次期30年改定でも、地域包括ケアシステムの中でかかりつけ歯科医機能の充実や多職種連携の推進を図り、患者の状態に応じた口腔機能管理ができるよう、生活の質に配慮した歯科医療の実現に向けて議論を進めたいと述べた。

堀会長は、昨年この席上で「平成14年からの数年間、歯科医療費の減少が続いた厳しい状況の中で、歯科界全体で危機感を共有し努力を重ねた結果、活性化の兆しが見えてきた」と挨拶をしたことを振り返り、そうした傾向がこの1年でさらに強まっているとの認識を示した。また、6月に閣議決定された、「経済財政運営と改革の基本方針2017」に、歯科医療及び口腔機能管理の充実に取り組む旨が明記されたことを改めて歓迎した。

そのうえで、地域包括ケアシステムの中でより

良い歯科医療を提供するために、研修会の出席者である都道府県歯社保指導者、各指導医療官、審査会関連者等が、それぞれの枠を越えて歯科医療の発展と、歯科医療に携わる者の地位向上に向けて責任を果たして欲しいと締め括った。

医療はどこで議論されているか

厚労省保険局 歯科医療管理官 小椋正之

小椋管理官は社会保障制度改革について、経済財政諮問会議の工程表を示して説明。工程表に沿って改革を進め、口腔の健康が全身の健康につながるという認識に則り、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能管理の推進等、歯科保健医療の充実に取り組む考えを示した。

診療報酬改定については中央社会保険医療協議会（中医協）の概要及び改定の流れについて説明。現在、各専門委員会及び総会で進められている議

論を踏まえ、12月に内閣が決定する改定率に従い、厚労大臣の諮問を受けて1月以降に具体的な診療報酬の設定が審議される。2月上旬には改定案が答申され、3月上旬に改定に係る告示通知が発出される。歯科については、5月の総会で歯科医療についての最初の議論が行われたが、12月に再度議題となる予定で、そこでおおよその方向性が明らかになる見込み。

また、歯科医師の資質向上に関する検討会についても触れ、医療が従来の病院または診療所の中だけで完結するのではなく、地域完結型に移り変わってくることに対応すべく、歯科医師の供給体制や安心安全な歯科医療の提供、在宅医療の推進等が議論されていることを報告した。

かかりつけ歯科医機能と医療連携

日本歯科医師会 常務理事 遠藤秀樹

遠藤常務理事は28年度改定後の医療費個別項目の動向について説明。歯科外来診療環境体制加算は昨年より増加。歯科疾患管理料（歯管）については文書提供が分離されたことにより60億円の減少を見込んでいたが、歯管単独での算定率が上がったために20億円の減少に収まったとのこと。CAD/CAM冠は58億円、歯周病安定期治療はSPTⅠが56億円、SPTⅡが40億円の増加を認めていること等も報告された。

また、28年度改定で「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」として設定された「かかりつけ歯科医」とは、地域包括ケアシステムの中で地域完結型医療を実現するための機能を持つものであると強調。地域包括ケアにおける歯科の役割は、自分の口で食べて健康寿命を延ばす手助けを行うことであるとし、かかりつけ医・かかりつけ薬剤師との役割分担が今後の課題であると述べた。

地域包括ケアシステムの構築について

岐阜県大垣市役所 高齢介護課長 篠田 浩

篠田課長が務める大垣市は、現在の人口は16万

人強だが、平成37年には15万人に減少し、高齢化率が29%まで上昇すると想定されている。15万人のうち、要支援・要介護認定者は1万人に上る見込み。介護保険制度が発足して16年が経過し、65歳以上の被保険者が約1.6倍となる中で、サービス利用者は3.3倍に増えて、高齢者介護になくてはならないものに定着しているが、在宅サービスの利用者が発足時より4倍に増加しており、自宅に住みたいと希望する住民も多いことから、行政も在宅医療・在宅介護を重視し、これを支えているという。

また、今後75歳以上の人口は、都市部では急速に、もともと高齢者の多い過疎地では緩やかに増加していくと分析。各地域の高齢化状況に合わせた対応が必要だが、様々な制度や施策が要介護者に同居者がいることを前提としており、世帯主が65歳以上の単身世帯や夫婦のみの世帯が増加している現状が考慮されていない点が問題であるとした。また、介護保険料は1,700ある自治体の中で地域格差がさらに拡大することが予想されると指摘。介護保険の持続性を考えて重点化や効率化を図っていかねばならないとした。

地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要であるとの視点から、「いつまでもこの地域に住みたい」という願いをかなえるために、介護・医療・予防といった専門的サービスの前提として、住まいと生活支援・福祉等の分野が重要であると述べるとともに、医療介護連携・多職種連携のために地域包括ケアセンターが個別ケースのマネジメントを行っていることや、地域ケア会議で個別事例の検討を行い、蓄積されたデータから明らかにされた地域ごとの個別サービスの不足に対して、行政が予算付けしていることを報告した。

この他、地域の医療・介護サービス資源を把握するための在宅医療マップの作成、多職種連携研修・介護従事者向け医療研修、市民公開講座や在宅医療ネットの普及啓発活動等、在宅医療・介護連携の推進に向けた様々な取組みも紹介された。

名古屋国税局管内税務指導者協議会

平成29年10月19日（木） ホテルアソシア静岡



10月19日(木)、ホテルアソシア静岡で名古屋国税局管内税務指導者協議会が開かれた。この会合は毎年この時期に開かれているもので、名古屋国税局管内の東海4県（愛知・岐阜・静岡・三重）の歯科医師会税務担当者らが一堂に会し、税務関連事業についての連絡・協議を行うとともに、名古屋国税局から担当者を迎え、意見交換を行っている。今年度は三重県歯から早川副会長と橋本理事、桑名理事、植村顧問税理士が出席。また、太田常務理事が日歯税務・青色申告委員会副委員長として参加した。

第一部前半は、当番県の静岡県歯による平成28年度管内4県歯の税務調査アンケートの結果報告及び各県歯の現況報告に続いて、①歯科医療機関実態調査の提出件数の確保 ②租税特別措置法第26条の推進 ③歯科医療機関実態調査結果の効果的な活用 ④申告所得税決算書等の収集と活用実績の紹介依頼等について意見を交わした。

後半は、日歯からの出席者2名がそれぞれ講演。税務・青色申告委員会からは太田副委員長が、日歯の平成30年度税制改正要望の要点として、▽社会保険診療報酬に対する事業税非課税の特例措置▽社会保険診療報酬の所得計算の特例措置（4段階制）▽高額な医療用機器に係る特別償却制度▽

社会保険診療に係る消費税非課税制度ーについて詳述。また、日歯の嘱託である丸山定夫税理士が「29年度税制改正と歯科クリニックの経営改善」と題して、29年度税制改正のポイントや歯科クリニックが税務上で誤りやすいポイント等を紹介した。

第二部からは名古屋国税局課税第一部個人課税課の伊藤嘉浩課長と宮島巨樹連絡調整官が加わって、歯科医師会出席者と意見交換。伊藤課長は、名古屋国税局管内の歯科医師の7割以上がe-Taxを活用していることについて謝意を示すとともに、マイナンバーカードの取得推進についても理解を求めた。宮島調整官からは、税務調査の状況や申告の際に誤りやすい事例について説明があった（P.30参照）。調査件数は前年並み、1件当たりの申告漏れ所得金額・追徴課税は減少、重加算税賦課割合は若干増加したとのこと。また、医療費控除を受ける際に医療費の領収書に代わり「医療費控除の明細書」を作成・提出することになった（医療保険者の発行する医療費通知でも可）ことやセルフメディケーション税制についても説明があり、医療機関でも納税者（患者）に周知を図るよう要請があった。

（理事・橋本淳二 記）



みえ歯ートネット通信

<http://www.dental-mie.or.jp/heartnet/>

from 障害者歯科センター

第34回日本障害者歯科学会総会及び学術大会

本年度の学術大会は九州歯科大学が主幹となつて10月28日(土)・29日(日)に福岡国際会議場で開かれ、障害者歯科センターからも齋藤センター長、武山協力歯科医及び中島、橋本、中村の3名の歯科衛生士が参加した。

超高齢社会の到来で、我が国の障害者に対する歯科医療は、これまでの歯科疾患に対する治療だけでなく、口腔ケアや摂食機能療法等のリハビリテーション、歯科訪問診療等、生活を支援する医療へと広がりを見せていることから、今大会では「障害者の歯科保健医療と生活支援」がテーマに掲げられ、障害者歯科医療に携わる専門職の立場で、どのように障害者の生活支援に役立てるかという課題について考えるものとなった。

内容は特別講演・教育講演・会長講演各1題に加え、3題のシンポジウム、5題の教育講座、5題のランチョンセミナー等、盛り沢山。最近では「障害を持つ患者の権利」に焦点を当てた講演や

シンポジウムが多く企画されており、今回も特別講演は「自己決定能力をめぐるパラダイム転換について」、医療福祉連携委員会企画シンポジウムは「障害者の権利擁護から導かれる合理的配慮」と題したものだった。シンポジウムには、障害児の保護者(一般市民)の歯科受診経験発表が含まれており、現実の障害者歯科では、障害者の「健康である権利」を守るという視点が疎かになり、治療のみに偏った対応になりがちな現状に対して警鐘を鳴らす内容だった。

障害者歯科センターからは「当障害者歯科センターにおいて直近2年以上来院が中断している患者の実態調査」と題したポスター発表を行った。これは一昨年にセンターの患者に対して実施したアンケート結果をまとめたもの。多くの施設で同様の状況を経験しているようで、3件の質問が寄せられた。

(障害者歯科センター長・齋藤 弘 記)

障害者歯科センター診療状況

10月

診療日	8日
診療担当者	常勤1名、非常勤6名 内訳・会員2名、大学4名
延患者数	140名

11月

診療日	7日
診療担当者	常勤1名、非常勤6名 内訳・会員2名、大学4名
延患者数	134名

第5回医科・歯科連携推進人材養成研修会

平成29年9月24日（日） 三重県歯科医師会館



9月24日(日)、三重県の医科・歯科連携推進人材養成事業に係る研修会が開かれ、120名を超える医療関係者(歯科医師は42名)が参加した。

三重大学医学部附属病院がんセンター・三重大学医学部歯科口腔外科・伊勢赤十字病院歯科口腔外科の3者は、昨年までの2年間に全4回の研修会を行ってきたが、「がん治療医科歯科連携における人材育成を継続すべき」という意見が多く、今年より新たに三重県歯も参画した形で、2年間で4回の研修会を実施することになった。この日は29年度第1回、通算では5回目の開催。

今回は「がん化学療法時の口腔管理」をテーマに掲げ、一般演題では伊勢赤十字病院薬剤部化学療法課の中西由衣氏が「がん化学療法における薬剤師の役割」と題して、伊賀市立上野総合市民病院栄養管理課の白井由美子氏が「がん集学的治療の一貫としての、がん在宅療養支援入院プログラムの導入」と題して、それぞれ発表した。中西氏は通院で化学療法を受ける患者が増加しており、薬の副作用や対処方法等の患者指導、レジメン(がん薬物療法の計画書)のチェック等、薬剤師の役割が増加していることを説明。一方、白井氏は化学療法での治療中は、カロリーが不足するこ

とによる骨格筋量低下が治療継続の妨げとなると述べ、EPAを含む栄養支持療法で化学療法継続日数が上昇することや、がん治療の成績にも効果があることを示すとともに、支持療法としての役割や緩和ケアでのQOL維持について説明した。

教育講演では三重大学医学部附属病院外来化学療法部部長の水野聡朗氏(写真左)が「固形腫瘍に対する薬物療法」として、最新の免疫療法について解りやすく説明するとともに、化学療法薬・分子標的薬・BP製剤等、がん化学療法で使用される薬剤と口腔周囲の副作用について詳しく紹介。BP製剤以外の血管新生阻害薬(ベバシズマブ、アバスチン®)でも顎骨壊死を引き起こす可能性があることについても説明を加えた。

特別講演では、岡山大学病院医療支援歯科治療部部長の曾我賢彦氏(写真右)が「がん化学療法時の口腔管理の意義と実際」と題して、血液内科で行われた実例をもとに、がん治療前に歯の感染巣を除去しておくことや、粘膜保護のための保湿の重要性等を説明するとともに、口腔ケアは緩和ケアにおいても重要な位置を占めていると説き、支持療法としての歯科の役割が再確認された。

(理事・蛭川幸史 記)

平成29年度 地域口腔ケアステーション対応力向上研修

平成29年10月1日（日）・8日（日） 三重県歯科医師会館



10月1日（日）・8日（日）に、三重県地域口腔ケアステーション設備整備事業に係る指定研修として、標記の研修会が開かれ、10件の歯科診療所の歯科医師と歯科衛生士が受講した。

第1日目はイントロダクションとして、藤田保健衛生大学医学部七栗記念病院歯科の金森大輔講師が「現在の社会が抱える摂食嚥下の問題、地域から見える患者像について」と題して講演。高齢化が進む日本の現状や三重県の在宅医療と高齢者の口腔内の状態について述べた。同大学連携リハビリテーション医学講座の岡崎英人准教授の講演「摂食嚥下障害とリハビリテーション」では、リハビリテーションとは病気のみでなく生活を診る医学であり、システムとして解決を図るものであると説いた。再度登壇した金森講師は「摂食嚥下障害機能に関わる解剖学と内視鏡についての基礎」で、摂食嚥下に関わる解剖、摂食嚥下のメカニズム、嚥下内視鏡操作の概要について解説した。リハビリテーション部の山路千秋言語聴覚士と岡崎准教授は「摂食嚥下の評価、リハビリテーションの概要」として、嚥下内視鏡と嚥下造影を含む各種検査による摂食嚥下障害の評価、関節訓練と直接訓練の実際について詳説した。食養部の堀内薫管理栄養士は「安全な食事で健康に生活するには？」で、低栄養に陥らないための基礎知識と七栗記念病院と市販の嚥下調整食について、地域包

括ケアセンターの松下寛代摂食嚥下障害看護認定看護師は「訪問看護における嚥下の問題」として、在宅の摂食嚥下障害患者への対応について紹介した。最後に、リハビリテーションII講座の前田寛文講師と永田千里歯科衛生士が「嚥下障害患者の対応」と題して、臨床所見や窒息等のリスク管理、口腔ケアについてそれぞれ講演した。

第2日目は金森講師らによる、気管及び口腔内・鼻腔の吸引と気管カニューレの解説からスタートした。その後、模型を用いて嚥下内視鏡操作についての実習、参加者の相互実習に進み、最後に窒息・誤嚥時の緊急対応について学んだ。



本研修の受講者は地域口腔ケアステーションで口腔機能向上に取り組む意思のある歯科医師・歯科衛生士であり、摂食嚥下障害に関する全ての内容が含まれた非常に有意義な研修会であった。

（常務理事・福森哲也 記）

平成29年度

October

第9回理事会

平成29年10月5日（木）

三重県歯科医師会館

みえ歯と口腔の健康づくり基本計画改定案について協議

10月5日(木)、平成29年度第9回理事会が開かれた。会合では、現在、三重県公衆衛生審議会及び同歯科保健推進部会並びにワーキンググループで検討が進められている「みえ歯と口腔の健康づくり基本計画」の改定案について協議した。平成25年3月に策定された同計画は30年3月に改定が予定されているが、現在、年度末の県議会に向けて中間案の取りまとめ作業が進められており、年明けのパブリックコメントを経て最終案が決まる見込みとなっている。日歯関連では、蛭川理事から歯科医療IT化検討委員会について、桑名理事から医療管理委員会について、それぞれ報告があった。IT化検討委員会ではHPKI認証局の設置に向けた方針が示され、医療管理委員会では院内感染対策や医療機関ウェブサイトの監視強化等について報告された他、特定商取引法や個人情報保護法への対応について協議が行われているとのこと。

委員会事業等報告

●社会保障委員会

【事業活動】自主懇談・個別指導【報告事項】被保険者証の氏名表記、最適使用推進ガイドラインの取扱い、施設基準の届出、平成29年度特定保険医療材料・再生医療等製品価格調査

●医療管理委員会



【報告事項】医療等に係るウェブサイトの監視体制強化事業、第1回医療管理講習会(12/3)、植村顧問記事(『三歯会報』10・11月号)、歯科相談(5件)【協議事項】第2回医療管理講習会(3/11)

●学術委員会

【事業活動】第1回学術研修会(9/10)、第5回医科・歯科連携推進人材養成研修会(9/24)【出席会議】第2回医科歯科連携推進部会(三重県がん診療連携協議会、9/24)【報告事項】研修会・講習会、医薬品関連情報(HP)、『日歯雑誌』都道府県学術レポート執筆依頼

●公衆衛生委員会



【事業活動】児童相談所一時保護所入所者への歯科健診・歯科保健指導(9/14)【出席会議】三重県小児保健協会理事会、第73回三重県小児

保健学会（9/10）、いい歯の8020表彰審査委員会、第9回かむかむクッキングコンクール一次審査、桑名市歯科保健総合事業打合せ、平成29年度口腔機能向上推進事業説明会、第2回「みえ歯と口腔の健康づくり基本計画」次期計画策定WG（9/14）、平成29年度地域口腔ケアステーション対応力向上研修（10/1）、第2回三重県在宅医療推進懇話会（10/2）【報告事項】いい歯の8020表彰、第9回かむかむクッキングコンクール一次審査結果、平成29年度親と子のよい歯のコンクール中央審査会結果、第70回三重県公衆衛生学会（1/19）、学校歯科保健先進地視察研修（1/18）、後期高齢者歯科健診確認作業に係る8020推進員募集、「オレンジまつり」への参加（11/5）、三重県地域口腔ケアステーション設備整備事業補助金、地域口腔ケアステーション対応力向上研修（耳鼻咽喉科講習）（11/26）、公衆衛生指導用PPT「認知症と口腔ケア」の作成、第3回歯科医師認知症対応力向上研修（12/10）、厚労省委託事業第5回全国

共通がん医科歯科連携講習会（12/17）

●広報情報委員会

【事業活動】FM三重『はぴはぴ子育て』（9/8放送）【報告事項】ベストスマイル・オブ・ザ・イヤー2017／著名人部門、県歯ウェブサイトと「医療ネットみえ（診療所情報）」のリンク

●災害時の対応・体制に関する委員会

【報告事項】SECOM登録状況（10/1現在）、平成29年度三重県・伊賀市・尾鷲市・紀北町総合防災訓練への参加（11/5）、会員安否及び被害状況の報告依頼（郡市会宛）

●日歯委員会報告

【地域保健委員会】8020推進財団平成29年度第1回地域保健活動推進委員会（9/21）【医療管理委員会】第1回医療管理委員会（9/20）【歯科医療IT化検討委員会】第1回歯科医療IT化検討委員会（9/7）【その他】第1回災害時対策・警察歯科総合検討会議（8/19）、第1回医療安全対策委員会（9/6）、第1回学術委員会（7/19）

その他の報告

1. 障害者歯科センター報告
2. 介護給付審査会（9/25）
3. 平成29年度第1回選挙管理委員会（9/28）
4. 平成29年度第1回裁定審議委員会（9/28）
5. 日学歯第93回臨時総会（9/13）
6. 日歯第186回臨時代議員会（9/14）
7. 第4回三重県国保運営協議会準備会（9/18）
8. 平成29年度東海信越地区歯科医師会等役員合同連絡協議会（10/14）の日程等

協議事項

1. 第23回三重県歯科保健大会開催地について
2. 第2次みえ歯と口腔の健康づくり基本計画について



議題

- 第1号：平成29年度第3回郡市会長会議の招集並びに附議事項に関する件
- 第2号：みえ糖尿病予防啓発県民公開講座に対する後援等について
- 第3号：互助会給付について（9/7～10/4申請分）
- 第4号：定款第12条に該当する退会について

平成29年度

第3回郡市会長会議

October

平成29年10月26日（木）

三重県歯科医師会館

平成30年の歯科保健大会、名張開催で合意

10月26日（木）、平成29年度第3回郡市会長会議が開かれた。田所会長は28年度概算医療費や厚労省の歯科医師の資質向上等に関する検討会での「かかりつけ歯科医」についての議論等を紹介。稲本専務理事は第2回郡市会長会議で協議した県行政等への要望について、その感触や進捗状況を含め報告した。学術委員会は懸案の「三重スポーツデンティスト（仮）」認定に係る研修会について、30年1月及び4月に実施する方向であることを明らかにした。認定規準等の詳細が決まり次第、会員に改めて周知する。公衆衛生委員会からも年度内の研修会予定が示された。広報情報委員会は11月2日（木）の三重テレビの地域情報番組『とってもワクドキ！』に熊谷理事が出演すること等を報告。3日（金・祝）の第22回三重県歯科保健大会について告知する。また、前週末の台風21号による会員診療所等の被害状況についても報告があり、執行部からは互助会の給付対象となる被害はもちろん、広く情報収集を図るため、郡市会に対して引き続き協力するよう要請があった。協議では、次回（平成30年度）の三重県歯科保健大会開催地を名張市とすることで合意。郡市会長からは、高騰する歯科用貴金属価格への対応やフッ化物洗口普及のための理解促進について提案があり、県歯がそれぞれ回答した。

会長報告



平成28年度概算医療費

9月15日（金）、厚労省が平成28年度の概算医療費を公表した（概算医療費は速報値で、労災・全額自費等の費用は含まない。これらを含めた全体の費用は国民医療費と呼ばれ、概算医療費は国民医療費の約98%に相当する。同13日（水）に27年度の国民医療費が公表されている）。

28年度概算医療費の総額は前年度から約

2,000億円少ない41.3兆円となった。昨年まで過去最高を更新し続けていたが、今回14年ぶりの減少。前年に大幅に伸びたC型肝炎治療薬等の抗ウイルス剤の薬剤料が減少したことや、診療報酬改定が全体でマイナス0.84%だったことが影響したとみられている。歯科は2.9兆円で約1.5%の増加。

歯科医師の資質向上等に関する検討会

歯科医師の資質向上等に関する検討会の第7回会合が10月13日（金）に厚労省で開かれ、「歯科保健医療ビジョン（素案）」についての協議が行われた。日歯からは柳川副会長と、村岡専務理事が構成員として出席。「あるべき歯科医師やかかりつけ歯科医の機能・役割」や「かかりつけ歯科医の意義とその役割」について資料を提出し、日歯の考えを示した。

一般会務報告



委員会事業報告

【学術】(蛭川理事)



第1回学術研修会アンケート結果

9月10日(日)に開催。会員及びそのスタッフら120名が出席した。

愛知学院大学歯学部附属病院との医療連携講演会

今年4月に調印した愛知学院大学歯学部附属病院との医療連携協定をより円滑に進めるため、11月30日(木)に講演会を開催する。同病院・障害者歯科診療部の名和弘幸部長が「地域と連携する診療部を目指して」と題して講演の予定。

「三重スポーツデンティスト(仮)」登録研修会

平成29年度第2回及び30年度第1回の学術研修会はスポーツ歯科医学を中心とした内容で、医科・歯科双方から講師を迎える(マウスガード講習会も29年度第2回研修会に含む)。これらの研修会の修了者を中心に「三重スポーツデンティスト(仮)」の登録制度を創設する方針。

郡市会学術研修会の予定

会員数

29年4月1日～10月25日の期間で入会12名、退会10名。現会員数858名。

県行政等に対する平成30年度要望

30年度に向けた県行政に対する要望については7月の第2回郡市会長会議での協議を踏まえ、8月の第7回理事会で決定。三重県歯連盟とともに、自民党県連・新政みえ・公明党に要望書を提出した。

10月26日(木)～12月21日(木)の期間に、桑員・鈴鹿・亀山・松阪・伊賀でそれぞれ学術研修会が開かれる。

【公衆衛生】(羽根副会長、福森常務理事)



平成29年度後半の研修会予定

全国共通がん医科歯科連携講習会及び歯科医師認知症対応力向上研修は、新入会員等の未受講者を対象に12月に開催。学校保健先進地視察研修は初めて中学校を視察する。第9回みえ歯ートネット研修会は2月8日(木)、第8回地域包括ケア歯科医療従事者養成講座は3月4日(日)に開催。年度内に言語聴覚士や管理栄養士を講師に迎えての口腔機能向上研修も企画しており、詳細が決まり次第周知する。

後期高齢者歯科健診受診状況中間報告

11月初めに後期高齢者歯科健診の9・10月の受診状況について報告を求める。次年度計画検討のために必要なので協力されたい。

第22回三重県歯科保健大会

11月3日(金・祝)にNTNシティホール(桑名市民会館)で開催予定(P.3参照)。「いい歯の8020表彰」の応募者は810名で過去最高を更新した。

地域口腔ケアステーション設備整備事業申込状況

口腔機能向上機器は37件、研修の必要な嚙下内視鏡が6件と、ほぼ予算規模に見合った応募があった。

【社会保障】(前田常務理事)

特定社保講習会

11月9日(木)に28年度に集团的個別指導を受けた44名の会員を対象に県歯が実施する。必ず出席されたい。

【医療管理】(桑名理事)

国税庁より納税者への周知依頼

29年分の確定申告から、医療費控除を受ける際に医療費の領収書に代わり「医療費控除の明細書」を作成・提出することになった(医療保険者の発行する医療費通知でも可)。この件について国税庁から医療機関に対して、納税者(患者)への周知依頼があった。チラシ等の窓口備え付け等が個別に依頼される。

医療事故調査制度の現況報告(8月・9月)

9月末現在で医療事故報告が累計751件、相談件数が累計3,732件、センター調査依頼件数が累計43件。

第1回医療管理講習会の開催

12月3日(日)に、三重県健康福祉部医療対策局の岡村益幸氏が歯科医療に対する相談事例と医療広告等について、損害保険ジャパン日本興亜(株)の木村崇一氏が医療紛争と初期対応についてそれぞれ講演する予定。

その他の報告

SECOM安否確認登録状況

10月23日(月)現在、SECOM安否確認システムの登録率は90.06%。

災害医療に関する情報伝達訓練及び県歯訓練

【福祉厚生】(橋本理事)



医業経営セミナーの開催

12月3日(日)に三歯協同組合主催の医業経営セミナーを開催する。組合員とその家族を対象としたもので、(株)リスクマネジメント・ラボラトリーの内田 隆氏が「歯科医院の資金繰り改善～見落としがちな大きなコスト～」と題して講演する。

【広報情報】(太田常務理事、蛭川理事)

「いい歯の日」企画地方紙広告掲載

日歯との協同事業として毎年実施しているもの。県内では中日新聞(三重版)と伊勢新聞に掲載。第22回三重県歯科保健大会の告知を中心とした内容で11月1日(水)に掲載予定。

三重テレビ『とってもワクドキ!』出演

熊谷理事が11月2日(木)に三重テレビの地域情報番組『とってもワクドキ!』に生出演する。10月に開催した「食と健康フォーラム」及び第9回かむかむクッキングコンクールの報告と第22回三重県歯科保健大会の告知を行う。

無線LANのセキュリティに係る注意喚起

内閣官房サイバーセキュリティセンターより、無線LANで使用されている通信規格(WPA2)の脆弱性について注意喚起があった。

11月14日(火)に桑員・四日市・鈴鹿・亀山で標記の訓練が実施される。これに併せて県歯のSECOM安否確認システムの訓練を実施する。

SECOM安否確認システム安否報告の読替え

SECOM安否確認システムでは第一信の安否報告の中に【出社可否】についての設問がある。これについては、【出社可否】は【診療可否】に、[出社済]は[診療可]に、[不可]は[診療不可]に、それぞれ読み替えて回答されたい(選択肢、[概ね1時間以内][概ね3時間以内][その他]は使用しないものとする)。発災時にはこの回答をもとに県歯公式ウェブサイトの「災害時マップ」で県民に向けた情報提供を行う予定。訓練に際しては迅速に回答されたい。なお、今後第一信の回答で本人の安全確認ができた場合には、[診療可][診療不可]を問わず、

第二信で医療救護及び身元確認の協力の可否を問うこととするので、その点も周知されたい。

台風21号の会員被害状況

10月22日(日)から23日(月)にかけて三重県に最接近した台風21号では、伊勢の床上浸水1件をはじめ、大雨・強風等による被害が20数件報告された。

会員安否及び被害状況の報告依頼

これまで台風等の災害発生時には県歯より郡市会に対し状況確認を行ってきたが、局所的な状況把握が困難なため、郡市会から県歯に対し報告を行うことを原則とする。様式は県歯から日歯に対する報告と同様のものを用いる予定。

協議事項

第23回三重県歯科保健大会の開催地について

稲本専務理事より第23回大会は中勢地域での開催となる旨の説明があり、村田会長(伊賀)が名張市での開催を了承した。11月4日(日)にアドバンスコープADSホール(名張市青少年センター)で行われる予定。

郡市会長からの提案事項について



松井会長(尾鷲)より歯科用貴金属価格の高騰への対応について、三歯協同組合での共同購入の可能性や、現在の組合員割引価格の設定について提案及び質問が示された。これに対し、稲本専務理事は、三歯協同組合・中井理事長との協議を踏まえ、価格変動が極めて大きいこと

から協同組合での一括購入にはそぐわないと回答。割引価格についても相場とのタイムラグが生じるため、ケースバイケースでの価格比較は難しいと説明した。



齋藤会長(南紀)は、小学校でのフッ化物洗口普及に当たり、教員側の協力を得るための方策について質問し、学校保健会等への働き掛けの強化を求めた。これに対し、羽根副会長は県教委の積極的な取組みを紹介するとともに、フッ化物の安全性については理解が進んでいる実状を説明。必要に応じ県歯役員も地域に説明に向く姿勢を改めて示した。

(広報情報委員・廣田好昭 記)

平成29年度

November

第10回理事会

平成29年11月2日(木)

三重県歯科医師会館

「三重スポーツデンティスト」制度について協議

11月2日(木)、平成29年度第10回理事会が開かれた。2020年の東京オリンピック開催に向け、日歯を中心に歯科としての協力体制が整えられる等、近年スポーツ歯科医学に注目が集まっており、三重県歯でも役員らが中心となって日本体育協会のスポーツデンティスト養成講習会を受講し認定を受けてきたが、今後県内でより広くスポーツ歯科医学の普及を図るため、「三重スポーツデンティスト」登録制度を創設することが提案された。学術委員会では既に30年1月と4月の2回に分けて、スポーツ歯科医学に係る6項目の講演から成る研修会を企画しているが、この受講者を中心に「三重スポーツデンティスト」として登録する制度を設けようというもの。この日の会合では、「三重スポーツデンティスト」の位置付けや登録条件、将来的な展望も含め、理事者から様々な意見が示された。年内にも事業実施要領をまとめ、会員に周知する予定。その他、平成29年度地域口腔ケアステーション設備整備事業について、嚙下内視鏡及び口腔機能向上機器の補助金申請等の議案が承認された。

委員会事業等報告

● 社会保障委員会



【事業活動】 自主懇談、共同指導立会 (10/26・27) 【出席会議】 社会保険情報ネットワーク連絡協議会 (10/15)、社会保険指導者研修会 (10/16)、社保・国保審査委員会合同協議会 (10/26)

● 医療管理委員会

【出席会議】 三重県後発医薬品適正使用協議会 (10/5)、名古屋国税局管内税務指導者協議会 (10/19)、三重県医療審議会第2回救急医療部

会 (10/20) 【報告事項】 ヨシダ「CT×2スプレングレード」自主回収、HOYA Technosurgical人工骨製品自主回収、歯科相談(8件) 【協議事項】 永年勤続表彰

● 学術委員会

【報告事項】 研修会・講習会、医薬品関連情報(HP)、第2回学術研修会抄録(1/21)、学術研修会助成事業申請(松阪、尾鷲、伊賀)

● 福祉厚生委員会

【報告事項】 第42回睦寿会総会・親睦会日程及び出席者等(11/23)

● 公衆衛生委員会

【事業活動】 平成29年度食と健康フォーラム(10/9)、平成29年度名張市高齢者在宅訪問歯科健康診査事業に係る講習会(11/2) 【出席会議】 三重県公衆衛生審議会第2回歯科保健推進部会(10/5)、平成29年度地域口腔ケアステーション対応力向上研修(10/8)、第9回かむか

むクッキングコンクール二次審査(10/9)、第22回三重県歯科保健大会第3回実行委員会、平成29年度第2回産業保健研修会、要保護児童スクリーニング指数(MIES)に関する打合せ(10/12、26)、第2回三重県がん対策戦略プラン策定検討部会(10/17)、第2回三重県公衆衛生審議会(10/18)、三重県学校保健会理事会、第15回三重大学緩和ケアセミナー(10/19)【報告事項】平成29年度歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール全国審査結果、8020運動推進月間チラシの配布(11/8実施予定)、『ママごはん』冬号掲載記事、地域口腔ケアステーションに関するアンケート集計結果、愛知学院大学歯学部附属病院医療連携登録状況、平成29年度地域口腔ケアステーション設備整備事業に対する県行政への申請者【協議事項】第4回東海オーラルマネジメント研究会の後援

●広報情報委員会

【事業活動】FM三重『はぴはぴ子育て』(10/13放送)、「いい歯の日」企画広告掲載(11/1、中日新聞三重版・伊勢新聞)、第22回三重県歯科保健大会報道回り、第2回広報情報委員会

(10/12)【出席会議】伊勢新聞「いい歯の日」企画広告打合せ(10/5)、三重テレビ『とってもワクドキ!』打合せ(10/12)

●災害時の対応・体制に関する委員会

【報告事項】SECOM登録状況(10/30現在)、SECOM安否確認訓練の実施(11/14)、三重県医療審議会第2回災害医療対策部会(10/10)

●日歯委員会報告



【社会保険委員会】第2回社会保険委員会(11/1)【税務・青色申告委員会】名古屋国税局管内税務指導者協議会(10/19)【医療管理委員会】第2回医療管理委員会(11/1)

その他の報告

1. 障害者歯科センター報告
 - ・第34回日本障害者歯科学会学術大会
2. 介護給付審査会(10月分)
3. 平成29年度東海信越地区歯科医師会等役員合同連絡協議会(10/14)
4. 平成29年度日本体育協会公認スポーツデンティスト養成講習会(10/14・15)
5. 第22回三重県歯科保健大会の日程・業務分担等(10/14)

協議事項

1. 平成30年度事業計画について
2. 第2次みえ歯と口腔の健康づくり基本計画案について
3. 平成29・30年度三重県歯科医師会認定「三重スポーツデンティスト」養成事業実施要項について

議題

- 第1号：平成29年度地域口腔ケアステーション設備整備事業に対する県行政への申請者の決定について
 第2号：第72回NPO法人日本口腔科学会学術講演会の後援等について
 第3号：互助会給付について(10/5～11/1申請分)

確定申告における注意点について

Q：所得税の確定申告の時期が近づいてきました。収入や必要経費において注意する事柄を教えてください。

A：平成29年10月19日に行われた日本歯科医師会主催の「名古屋国税局管内税務指導者協議会」において、国税局担当官から下記の税務調査事例に基づき「適正申告のお願い」の説明がありました。この事例の殆どは、収入や必要経費について歯科医師から税理士に対する連絡が適切に行われていないことが原因で発生しています。

歯科医師会の会員（個人・法人）の殆どの方は、歯科業務の記帳、決算、確定申告を、税理士に依頼していると思います。具体的には、税理士は、歯科医師から「歯科業務の収入や支出に関する書類」、例えば、日計表、歯科材料購入書類、外注技工明細書、消耗品費・水道光熱費・交際費など必要経費の領収書、歯科業務用の普通預金通帳（写し）などの提供を受け、年中の記帳と決算を行っています。歯科医師は、これらの書類において、歯科業務の「全ての収入の記載」や「業務に関する支出と生活に関する支出の区分」をする必要があります。また、事業所得以外の「他の所得」の源泉徴収票等や「社会保険料など所得控除額」の証明書を税理士に提供する必要があります。

1 収入関係（税務調査において事業収入金額の申告漏れとされた事例）

（1）自費診療収入、保険診療窓口収入や歯ブラシの一部分が申告されていなかった。

（注）税務署では、患者の医療費控除申告書から自費診療収入の情報を収集しています。

（2）市区町村から委託された歯科検診などの収入が申告されていなかった。

（3）金や銀などの金属くずの売却収入が申告されていなかった。

（注）貴金属くずの買取業者は、仕入の相手方の氏名・名称、仕入年月日、仕入商品の内容、仕入金額を帳簿に記載し、領収書等を保存しなければならないこととされています（消費税法第30条）。

2 必要経費関係（税務調査において歯科事業の必要経費とされなかった事例）

（1）歯科医師の昼食代や歯科医師・家族等の私的な飲食費を接待交際費としていた。

（注）交際費と認められるために、領収書等に歯科業務の関連性、相手方の氏名を記載しましょう。

（2）ネット通販やカードによる購入生活用品を歯科業務の消耗品として必要経費としていた。

（注）カード等による購入は、購入商品の内容の分かるレシートなどの保存が必要です。

（3）乗用車の減価償却費は事業と生活費の使用区分が必要であるにもかかわらず全額必要経費としていた。

（4）歯科医師会に支払う政治連盟費や福祉共済負担金、年金拠出金は生活費であるにもかかわらず必要経費としていた。

（5）歯科業務に従事していない家族使用人に対する給料、または歯科業務の従事状況に比して高額な家族使用人に対する給料を必要経費としていた。

3 消費税関係

（1）歯科事業用車両の下取り売却収入（事業の部分）は、課税売上として申告しなければならないにもかかわらず、申告されていなかった。

（2）簡易課税制度における歯科業務に係る収入の業種区分がされていなかった。

歯科矯正など自費診療収入、金属などの売却収入や事業用車両の下取り売却収入は第5種事業、歯ブラシなどの物品販売は第2種事業となります。



10月・11月会務日誌

Association Diary

10月

- | | | |
|--------|---|--|
| 1日 | 平成29年度地域口腔ケアステーション対応力向上研修開催 | 催され福森常務理事、浜瀬理事出席 |
| 2日 | 第2回三重県在宅医療推進懇話会に羽根副会長出席 | 15日 平成29年度社会保険情報ネットワーク連絡協議会が東京都で開催され大杉副会長、前田常務理事、鳴神理事、川瀬理事出席 |
| 3日 | 常務理事会開催 | 16日 平成29年度社会保険指導者研修会が東京都で開催され大杉副会長、前田常務理事、鳴神理事、川瀬理事、浜瀬理事出席 |
| 5日 | 第9回理事会開催
平成29年度三重県後発医薬品適正使用協議会に早川副会長出席
三重県公衆衛生審議会第2回歯科保健推進部会に福森常務理事、伊東理事出席
三重県警察学校「歯と健康に関する講演」にて伊藤理事講演 | 17日 第2回三重県がん対策戦略プラン策定検討部会に羽根副会長出席 |
| 8日 | 平成29年度地域口腔ケアステーション対応力向上研修開催 | 18日 第2回三重県公衆衛生審議会に羽根副会長出席 |
| 9日 | 第9回かむかむクッキングコンクール、平成29年度食と健康フォーラム開催 | 19日 平成29年度名古屋国税局管内税務指導者協議会が静岡県で開催され植村顧問税理士、早川副会長、橋本理事、桑名理事出席
三重県学校保健会理事会に羽根副会長出席
第15回三重大学緩和ケアセミナーに福森常務理事出席 |
| 10日 | 三重県医療審議会第2回災害医療対策部会に稲本専務理事出席 | 20日 三重県医療審議会第2回救急医療部会に早川副会長出席 |
| 11日 | 第10回三重県経済懇談会に田所会長出席 | 26日 第3回郡市会長会議開催
平成29年度三重県産業保健総合支援センター運営協議会に田所会長出席 |
| 12日 | 第22回三重県歯科保健大会第3回実行委員会、第2回広報情報委員会開催
第2回産業保健研修会に羽根副会長出席 | 28・29日 第34回日本障害者歯科学会学術大会が福岡県で開催され齋藤障害者歯科センター長、武山先生出席 |
| 14日 | 平成29年度第1回東海信越地区歯科医師会会長・専務理事連絡協議会が長野県で開催され田所会長、稲本専務理事出席
平成29年度東海信越地区歯科医師会役員・同国保組合役員・同連盟役員合同連絡協議会が長野県で開催され役員出席 | 31日 常務理事会開催 |
| 14・15日 | 日本体育協会公認スポーツデンティスト養成講習会（医科共通Ⅰ）が東京都で開 | |



11月

- 1日 日本歯科医師会第2回社会保険委員会に大杉副会長出席
日本歯科医師会第2回医療管理委員会に桑名理事出席
- 2日 第10回理事会、第17回社会保険疑義事項検討会議開催
日本歯科医師会生活歯援プログラムに係る講演会が鳥取県で開催され羽根副会長出席
平成29年度名張市高齢者在宅訪問歯科健康診査事業における講習会に福森常務理事、新理事出席
- 3日 第22回三重県歯科保健大会開催
- 4・5日 日本体育協会公認スポーツデンティスト養成講習会（スポーツ歯科医学Ⅱ）が東京都で開催され伊東理事、伊藤理事出席
- 5日 平成29年度三重県・伊賀市・尾鷲市・紀北町総合防災訓練に田所会長、稲本専務理事、熊谷理事、平井吾一会員出席
みえ こどもの城オレンジまつりに福森常務理事、新理事出席
- 6日 第2回三重県がん対策推進協議会に田所会長出席
第1回三重県後期高齢者医療広域連合運営協議会に大杉副会長出席
- 9日 特定社保講習会開催
- 10日 第38回全国学校歯科保健大会会長招宴が富山県で開催され田所会長出席
第2回三重県社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会に羽根副会長出席
- 11日 第38回全国学校歯科保健大会が富山県で開催され田所会長、羽根副会長出席
- 12日 日本子ども虐待防止歯科研究会理事会・学術大会が神奈川県で開催され羽根副会長出席
- 15日 都道府県歯科医師会専務理事連絡協議会に稲本専務理事出席
- 桑員歯科医師会社保勉強会に川瀬理事出席
三重県医療審議会第3回災害医療対策部会に桑名理事出席
- 16日 第67回全国学校歯科医協議会開催
平成29年度全国学校保健・安全研究大会に田所会長、羽根副会長、福森常務理事出席
三重県医療審議会第3回救急医療部会に早川副会長出席
第1回三重県医療安全推進協議会に桑名理事出席
- 18日 みえ摂食嚥下リハビリテーション研究会世話人会・学術集會に福森常務理事出席
日本法歯科医学会第11回学術大会が千葉県で開催され熊谷理事出席
四日市歯科医師会学校歯科医研修会に伊東理事出席
- 20日 第2回三重県准看護師試験委員会に福森常務理事出席
- 22日 都道府県歯科医師会学術担当事務連絡協議会に蛭川理事出席
- 23日 第42回睦寿会総会・親睦会開催
第12回子育て応援！わくわくフェスタに福森常務理事、新理事出席
東京オリンピック・パラリンピックに向けた講演会（IOC（国際オリンピック委員会）委員）及びシンポジウムが東京都で開催され蛭川理事出席
- 26日 平成29年度地域口腔ケアステーション対応力向上研修開催
- 29日 第3回三重県在宅医療推進懇話会に羽根副会長出席
- 30日 第2回社会保障委員会、平成29年度愛知学院大学歯学部附属病院との医療連携講習会開催
名張警察署「健康講演」にて稲本専務理事、伊藤理事講演



会員消息 Member's News

本会会員数 (12月1日現在)

正会員第1種 (一般)	693名
正会員第2種 (勤務)	28名
正会員終身	127名
準会員第3種 (法人)	8名
準会員第4種 (直属)	2名
長期の疾病等の会員	2名
計	860名

日歯会員数 64,896名 (10月31日現在)

謹んでおくやみ申し上げます



竹島 功先生 (松阪)

去る8月24日、お亡くなりになりました。

享年59歳

新入会員



なるかみたかみつ
鳴神貴充先生 (12. 1付)

診 津市大里窪田町高入2446

(医) 恵仁会

鳴神歯科医院

電 話 059-232-2101

F A X 同 上

(津)



小山富隆先生 (松阪)

去る9月28日、お亡くなりになりました。

享年62歳



しだ ひでお
志田英雄先生 (12. 1付)

診 松阪市白粉町331-13

志田歯科

電 話 0598-21-3066

F A X 同 上

(松阪)



岡田實之先生 (松阪)

去る10月1日、お亡くなりになりました。

享年87歳

診療所名変更

水谷高明先生 (桑員)

さくら矯正・歯科クリニック



新入会員プロフィール

Rookie's Profile

なるかみたかみつ

鳴神貴充先生（津）

1. 学歴

高校 私立高田高等学校

大学 朝日大学（平成15年度卒業）

2. 卒業後の研修先・勤務先

平成16年4月（医）幹人会鳴神歯科

平成20年4月（医）恵仁会鳴神歯科医院

3. メッセージ

はじめまして。この度、入会させていただくことになりました鳴神貴充と申します。

朝日大学卒業後、地元で勤務医として働いてまいりました。

今後は会員として、地域の皆様のお口の健

康増進に努めていきたいと思っております。

まだ未熟者ではありますが、御指導御鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



しだ ひでお

志田英雄先生（松阪）

1. 学歴

大学 岐阜歯科大学（昭和57年度卒業）

2. 卒業後の研修先・勤務先

昭和58年4月 磯田歯科医院

昭和62年1月 医療法人桜木記念病院

平成22年4月 なおみ歯科

平成25年1月 ぶらん歯科

平成27年9月 はやし歯科

3. メッセージ

今回、再度入会させていただきました。9年前に退会するまでの約20年間の会員生活は楽しい思い出でいっぱいです。今年から様々な先生方と知り合い楽しみながら、少し

でも歯科医師会に貢献できれば良いと思っております。

診療所、歯科医師としての目標は、約20年の病院歯科勤務と長い往診経験を活かして、自分の生まれ育った松阪で、往診専門の歯科医師として地域に密着した医療を提供することです。

趣味は、高校時代に始めたサーフィンで、今でも夢中になっています。いろんな国の大波に乗ることで自分が生かされていることを実感できます。ケガとりハビリの繰り返しですが、これからも、いろんな国で大波に乗りたいと思っています。



告知板

Information

介護予防講演会

口は健康の入り口、 魂の出口!!

～口腔ケアの口腔機能向上は肺炎予防・介護予防の要～

縁があって以前NHKラジオ深夜便「心の時代」に声の出演をさせていただきました。「口は長寿(長生き)の門」というテーマでしたが在宅診療にかかわって、要介護者とその家族が必死で生きている姿を歯科医師の目線で伝えました。つたない話でしたが、これまで経験してきたことをできるだけ患者さんの立場に立って話しました。しかし放送後、すごい反響を頂きました。この経験から私は近未来“口腔医療の時代”を迎えると固く信じております。本講演ではなぜ「口腔ケアが肺炎予防、介護予防の要か」を熱く語ります。そして元気なうちにホーム歯科医を見つけ、迫りくるフレイル(寝たきりの前の虚弱状態)に向けて、しっかり口腔の管理をされてください。人生は口で決まります。

平成30年3月4日(日)
午後1時30分開演(午後1時開場)
NTNシティホール(桑名市民会館)2階小ホール

入場無料
申込不要

手話通訳・磁気ループ
要約筆記あり

講師／米山歯科クリニック 米山 武義 先生



1979年 日本歯科大学歯学部卒業 同大学歯周病学教室助手
1981年～83年 スウェーデン・イエテボリ大学歯学部留学、スウェーデン政府奨学金給費生
1989年 伊豆逋信病院歯科(非常勤)
1991年 米山歯科クリニック開業
1997年 歯学博士
2003年 医学博士
老年歯科医学会、同指導医、認定医、主な著書・共著「歯周病と全身の健康を考える」、「誤嚥性肺炎を予防する口腔ケア」、「新しい介護」など多数 TV出演 ためしてガッテン

〈講演会と併設して開催〉

お口いきいきコーナー 12時～13時20分

- ・口臭測定
- ・お口の湿潤度測定
- ・口唇圧測定
- ・口腔ケア用品展示説明
- ・お口の中の細菌顕微鏡観察
- ・お口の相談コーナー
- ・舌圧測定



日本歯科医師会PRキャラクター
よゆさん(三重県)



主催
問合せ先

桑名市役所介護予防支援室 ☎0594-24-5104
一般社団法人桑名歯科医師会 ☎0594-22-3517



会員の広場 Member's Plaza

第42回睦寿会総会・親睦会開催

平成29年11月23日（木・祝）

ホテルグリーンパーク津

11月23日(木・祝)、第42回睦寿会総会及び親睦会が開かれ、今年度新たに入会した2名を含む18名の睦寿会会員が参集しました。総会で冒頭の挨拶に立った県歯・田所会長は、超高齢社会となった我が国において歯科医師による医療・介護への積極的な関わりが求められていることや、健康づくり計画における多職種連携の重要性の高まりについて報告。峰 正博顧問からは出席者のこれまでの会務への協力について謝意が示され、稲本専務理事からは会務報告が行われました。懇親会では橋本理事が司会を務め、大杉副会長の開会の挨拶に続いて山根監事による乾杯の発声で開宴。県歯役員や福祉厚生委員は睦寿会の先輩から様々な助言をいただき、最後に早川副会長が閉会の辞を述べ、お開きとなりました。





第65回東海4県歯野球大会／三重県歯チームが優勝

平成29年11月23日（木・祝）

岐阜県関市十六所公園グラウンド

11月23日(木・祝)、岐阜県関市で第65回東海4県歯科医師会親善野球大会が開かれ、三重県歯野球チームがみごと優勝しました。今年は県内各地から11名の野球好きの会員が結集。チームとしての練習の機会が得られず、一抹の不安を覚えながらの参戦でしたが、若手の加入や自主トレの成果もあり、愛知県歯チームと対した初戦では、打線がつながりを見せて13対6で快勝。その勢いに乗って決勝でも6対1で岐阜県歯チームを破り、平成20年以来となる久々の優勝を飾りました。なお、最優秀選手には笠原亮輔先生(津)が選ばれました。



三重県歯科医師会野球チーム参加者募集！

東海4県歯科医師会野球大会に貴方も参加しませんか？ 野球経験の有無は問いません。上下関係なく会員同士の親睦を深められる場であり、他県の会員とも交流できる貴重な機会です。

次回第66回大会は5月に三重県で開催される予定ですので、少しでもご興味のある方は下記の郡市会別担当者にお気軽にお声かけ下さい。お待ちしております！

各郡市会別担当者／桑員：伊藤寿志、四日市：芝田憲治、鈴鹿・亀山：伊藤真治、津・伊賀：西本康助、松阪：鮎田裕之、伊勢・鳥羽志摩・尾鷲・南紀：熊谷 渉



互助会の現況

(29年10月1日～31日)

第1部（疾病共済）		
入会 0名	退会 0名	累計 716名
収入累計 199,033,577円	繰越 199,033,577円 入金 0円	
支出 1,380,000円		
残高 197,653,577円	定期 138,000,000円 普通 59,653,577円 国債 0円	

療養給付：1名

死亡給付：0名

第2部（火災・災害共済）

入会 0名	退会 0名	累計 722名
収入累計 164,764,015円	繰越 164,764,015円 入金 0円	
支出 0円		
残高 164,764,015円	定期 110,690,000円 普通 54,074,015円	

(29年11月1日～30日)

第1部（疾病共済）		
入会 0名	退会 0名	累計 716名
収入累計 197,653,577円	繰越 197,653,577円 入金 0円	
支出 1,020,000円		
残高 196,633,577円	定期 138,000,000円 普通 58,633,577円 国債 0円	

療養給付：1名

死亡給付：1名

第2部（火災・災害共済）

入会 0名	退会 0名	累計 722名
収入累計 164,764,180円	繰越 164,764,015円 入金 165円	
支出 400,000円		
残高 164,364,180円	定期 110,690,000円 普通 53,674,180円	

災害給付：1名

平成29年6月診療分歯科診療報酬状況（三重県）

		社会保険			国民保険		
		1件当 日数	1日当 点数	1件当 点数	1件当 日数	1日当 点数	1件当 点数
一般	本人	1.7	670.1	1,112.6	1.7	671.1	1,172.5
	家族	1.5	636.3	943.1			
後期高齢者医療		—	—	—	1.8	708.0	1,307.0

平成29年7月診療分歯科診療報酬状況（三重県）

		社会保険			国民保険		
		1件当 日数	1日当 点数	1件当 点数	1件当 日数	1日当 点数	1件当 点数
一般	本人	1.7	670.1	1,123.3	1.7	669.9	1,155.7
	家族	1.5	638.8	940.5			
後期高齢者医療		—	—	—	1.8	707.5	1,292.3

平成29年度第1回全協理事長・役員研修会

9月21日(木)、都内アルカディア市ヶ谷で、全国国保組合協会(全協)の平成29年度第1回目となる理事長・役員研修会が開かれ、三齒国保組合から中井理事長と前田(和)副理事長が出席した。研修は2部構成で行われ、第1部では「国民健康保険組合を巡る最近の動向」と題して厚労省保険局・鳥井陽一国保課長が講演。国保組合の概要から平成30年度の国保組合関係の概算要求、直近の

主な制度改正、保険者機能の強化、マイナンバー(社会保障・税番号)制度のインフラを活用したさらなるサービス、データヘルス計画について解説した。第2部では「安倍政権の命運」と題し、元毎日新聞常務取締役のジャーナリスト河内孝氏が長年にわたる政治部記者としての経験を紹介。安倍一強の構造について独自の視点からの分析を披露した。

東海信越地区歯科医師国保組合役員連絡協議会／長野で開催



10月14日(土)、ホテルメルパルク長野で東海信越地区歯科医師国保組合役員連絡協議会が開かれ、中井理事長と前田(和)副理事長が出席した。協議会に出席した東海信越6県のうち、愛知・岐阜・三重の3県では歯科医師国保を独自運営しているが、新潟・長野・静岡の3県は全国歯科医師国保組合(全国歯)に支部として所属している。今回の会合には、全国歯科医師国保組合連合会(全歯連)の山口誠一郎会長と、全国歯の三塚憲二理事長がそれぞれ出席した。

協議では、▽「インセンティブ事業」の取組み

▽「データヘルス計画策定」の進捗状況▽被保険者証発行におけるマイナンバー情報連携▽保険料賦課に対する所得(応能)割の導入▽保険料滞納者への対応—について意見を交わした。

予防・健康づくり等に関する保険者インセンティブについて、市町村国保では保険者努力支援制度が昨年度から前倒して実施され、各評価指標が示されている。国保組合については、平成30年度から各組合の取組み等が特別調整補助金に反映される予定になっていることから、現在の保健事業の取組み状況が各県から報告された。

健診関係では、特定健診・保健指導・人間ドック・がん検診への補助、疾病予防としてはインフルエンザ・肺炎球菌・B型肝炎予防接種への補助、糖尿病等の重症化予防の取組みについて情報交換。今後は、特定健診・保健指導受診率等も含め、実施した事業の成果も求められることが考えられることから、平成29年12月に厚労省から示される指標を注視し、事業を検討することが必要となる。

三齒協同組合が医業経営セミナーを開催



12月3日(日)、三重県歯科医師協同組合として初めての試みとなる医業経営セミナーが開かれた。

この日のセミナーでは、(株)リスクマネジメント・ラボラトリーの内田 隆氏が「歯科医院の資金繰り改善～見落としがちな大きなコスト～」と題して講演。診療所経営をめぐる環境変化について説くとともに、住宅ローン・退職金税制・生命保険等、多岐にわたる知見が披露され、参加した33名の会員とその家族は具体的なアドバイスに熱心に耳を傾けていた。

30年初めには、同社による少人数制の経営塾を3回にわたって開催することが決まっている。

国保組合被保険者全国大会／国保制度改善強化全国大会



11月29日(水)、東京・永田町の憲政記念館で全国国保組合協会(全協)が主催する国保組合被保険者全国大会が開かれ、三齒国保組合から中井理事長と熊谷常務理事が出席した。大会会長として冒頭の挨拶に立った真野 章会長は、段階的に行われている定率補助の削減について触れ、「激変緩和措置の期間延長と補助対象の拡充を要望していく」と述べた。続いて、伊吹文明元衆議院議長が来賓として挨拶。国保組合としても支出抑制のため健康づくりに取組むよう呼び掛け、今後も国保組合・国民皆保険制度を含めた日本の社会保

障制度の維持が重要であると訴えた。厚労省保険局・鳥井陽一国保課長は、定率補助が減額される組合に対して激変緩和措置等により支援する意向を示した。大会で要望書案が全会一致で可決された後、これを携えて厚労省及び衆議院議員会館へ向かい陳情活動。三齒国保は、川崎二郎元厚生労働大臣、三ツ矢憲生元財務副大臣、田村憲久元厚生労働大臣にそれぞれ面会し、要望書を本人に手交し、その内容を説明した。

中井理事長は、翌30日(木)に有楽町のよみうりホールで開かれた、国保中央会等が主催する国保制度改善強化全国大会にも出席。大会では全国知事会副会長の栃木県・福田富一知事による開会の辞に続いて、主催者を代表し国保中央会会長の高知市・岡崎誠也市長が挨拶に立ち、制度創設以来の変革期にある国民健康保険制度の現状を踏まえ、制度改善の実現を訴えた。大会で「大会決議文」を承認後、前日同様に各班に分かれて国会、政党及び政府関係者への陳情を行った。

国保組合の現況

平成29年 8月 / 9月

保険給付状況

		29年 8月		
		件数	費用額	保険者負担額
療養給付費	当月分	3,505	48,413,774	34,169,093
	累計	17,813	234,158,438	165,220,757
療養費	当月分	109		425,899
	累計	475		1,861,892
高額療養費	当月分	23		1,438,372
	累計	140		25,623,877
移送費	当月分	-		-
	累計	-		-
出産育児一時金	当月分	3		1,260,000
	累計	11		4,620,000
葬祭費	当月分	-		-
	累計	5		680,000
食事療養標準負担額減額差額	当月分	-		-
	累計	-		-
傷病手当金	当月分	12		533,000
	累計	77		3,161,000

		29年 9月		
		件数	費用額	保険者負担額
療養給付費	当月分	3,375	45,695,412	32,221,712
	累計	21,188	279,853,850	197,442,469
療養費	当月分	107		393,701
	累計	582		2,255,593
高額療養費	当月分	33		1,807,650
	累計	173		27,431,527
移送費	当月分	-		-
	累計	-		-
出産育児一時金	当月分	8		2,520,000
	累計	19		7,980,000
葬祭費	当月分	1		150,000
	累計	6		830,000
食事療養標準負担額減額差額	当月分	2		7,950
	累計	2		7,950
傷病手当金	当月分	25		1,206,000
	累計	102		4,367,000

収支状況

		29年度29年 9月累計	
区分		金額	
歳入合計		809,024,584	
歳出合計		382,816,124	
収支差引残高		426,208,460	

		29年度29年10月累計	
区分		金額	
歳入合計		904,679,814	
歳出合計		484,501,330	
収支差引残高		420,178,484	

被保険者異動状況

			29年10月31日現在	
区分	被保険者数		前月との比較	
組合員	2,740		△12	
家族	1,466		△9	
計	4,206		△21	

			29年11月30日現在	
区分	被保険者数		前月との比較	
組合員	2,730		△10	
家族	1,465		△1	
計	4,195		△11	

編集後記

Editor's Note

広報情報委員になって3期目を迎えます。10月には久しぶりに郡市会長会議取材しました。いつも、日常臨床とは違う視点から歯科の課題に触れる機会となるので興味深く臨んでいます。

災害時の対応についてはしばしば話題に上りますが、今回は台風21号の被害報告等もあり、現実的な課題として受け止めることができました。県歯には互助会の制度もありますが、自分の診療所の損害補償対策等も改めて見直そうと思いまし

た。一方で無線LANの脆弱性についての注意喚起があり、様々な分野での危機管理が求められていることも実感しました。

平成30年度医療介護同時改定に向けた動きからも目が離せません。本紙が届く頃には、具体的な方向性が明らかになっているのでしょうか。消費税の使途の見直し等も議論の俎上に載っていますが、適切な財源確保を期待したいところです。

(広報情報委員・廣田好昭 記)

愛知県医療信用組合は、歯科医師のための「相互扶助」の金融機関です。

昭和37年設立の「**歯科医の歯科医による歯科医のための組合**」です。

● ご 預 金 ●

- ★市中銀行より利率の高い預金
普通預金、積立預金、定期預金
- ★将来の貯蓄にメリット大 など
- ★キャッシュカードは全国の金融機関並びに大手コンビニATMでも引き出しできます

● ご 融 資 ●

- ★歯科医師会入会金ローン
- ★開業資金
- ★運転資金、設備資金
- ★自動車ローン
- ★後継者の学資ローン など

詳細はホームページを
ご参照ください。

愛知県医療信用組合

検索

<http://www.iryoushin.com/>



愛知県医療信用組合

〒460-0002
名古屋市中区丸の内三丁目5番18号
愛知県歯科医師会館6階

TEL : (052) 962-9569 FAX : (052) 951-8651

DAIKIN

三重県歯科医師会協同組合員の皆様へ
おかげさまで創業71周年



以心伝心

まごころこめて

快適な

節電計画のご提案

最新の補助金活用・税制優遇をご案内

補助金事業部では設計・申請・施工を一貫して行い、コストカットし採択率を高めます



お客様の声 (398件) ▶▶▶▶

www.tousanreitouki.com/voice/

7年連続 販売台数 全国1位

弊社は2016年度環境対策型エアコン販売台数
で7年連続全国1位を継続しています。
創業71年の実績と経験で、安心をお届けしま
す。

※2017年6月ダイキン工業 全国特約店 第1位

10年保証

今年で14年目を迎えました10年保証
そして2014年2月より、さらなる安
心の15年保証。より長く安心して
エアコンをご利用いただけます。



お問い合わせは AM9:00~PM6:00

ダイキン工業特工店 業務用エアコンのことなら

フリーダイヤル
☎0120-130-047 東3冷凍機
当社HP:www.tousanreitouki.com



ZIP-FM 77.8

ZIP-FM NOW ON AIR

ナレーション：加藤登紀子

Kawaryo Group



歯科用スクラップを どうしていますか？

現在、環境問題は、地球規模となり、人々の生活に大きく関わっています。
一人一人ができること、市や国ができること、スケールは様々ですが、
企業ができることの一つとして、限りある資源を大切に
そして有効に利用していくことがあります。
このリサイクルについて、独自のシステムを開発、構築し、
環境保全や人々に喜ばれる事業を目指しています。

Kawaryo Group Organization

貴金属及び歯科用撤去冠のリサイクル

(株)ICAWARYO PGM

静岡本社 / 〒431-1103 静岡県浜松市西区湖東町5850-2F
TEL 053-486-2660 FAX 053-486-2665
東京営業所 / 〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-14-20 植山ビル101号室
TEL 03-6715-8604 FAX 03-6715-8065
<http://www.kawaryo-pgm.jp> info@kawaryo-pgm.jp

貴金属及び歯科用撤去冠のリサイクル

ユタカ(株)

〒604-8461 京都府京都市中京区西ノ京中保町10-1
TEL 075-406-7341 FAX 075-406-7342
<http://yutaka-t.com>

貴金属及び歯科用撤去冠のリサイクル

(株)ピージーエム・プラス

〒770-0006 徳島県徳島市北矢三町3-1-55
TEL 088-679-8162 FAX 088-679-8163

貴金属及び歯科用撤去冠のリサイクル

(株)SANKO

〒577-0016 大阪府東大阪市長田西1-1-17
TEL 0120-017-335 FAX 011-351-1174
<http://heinz-company.jp>

貴金属及び歯科用撤去冠のリサイクル

(株)ICAWARYO九州

九州本社 / 〒860-0052 熊本県熊本市西区田崎本町10-4
TEL 096-356-2578 FAX 096-274-1221
福岡営業所 / 〒812-0053 福岡県福岡市東区箱崎1-11-11-1F
TEL 092-409-2418 FAX 092-409-2427
鹿児島営業所 / 〒891-0113 鹿児島県鹿児島市東谷山6丁目33-18
TEL 099-297-6938 FAX 099-297-6935
沖縄営業所 / 〒901-2214 沖縄県宜野湾市我如古2-7-12
TEL/FAX 098-897-4002
<http://www.kawaryo-q.co.jp> info@kawaryo-q.co.jp

人と地域に
寄り添い
同じ未来を
見つめる銀行。

お気軽にご相談ください。
《資産運用・住宅ローン・ビジネスローン》

百五銀行
FRONTIER BANKING

インターネットホームページ <https://www.hyakugo.co.jp/>

FRONTIER BANKING





SOMPO
ホールディングス
保険の先へ、挑む。

損保ジャパン日本興亜の三重県オリジナル自動車保険

安心・安全のお参りつき

『THE クルマの保険 三重』



赤目四十八滝 (写真提供:赤目四十八滝渓谷保勝会)



四日市工場夜景 (写真提供:四日市観光協会)



伊勢神宮 (写真提供:神宮司庁)



賢島 (写真提供:伊勢志摩国立公園協会)

損保ジャパン日本興亜は、三重県と「地域産業の支援等に関する包括協定」を締結し、三重県民の皆さまの安心・安全なくらしの実現に向け、協働した取り組みを行っています。

特長① 安心補償

地震・噴火・津波
車両全損時一時金特約が付帯されます！

特長② 交通安全

安心・安全のお参りつき！ 全国初！

特長③ 社会貢献

三重県の災害ボランティア活動の
支援に貢献できます！ 全国初！

【引受保険会社】



SOMPO ホールディングス | 保険の先へ、挑む。
損害保険ジャパン日本興亜株式会社

三重支店 津支社 〒514-0004 三重県津市栄町3-115
損保ジャパン日本興亜ビル6F TEL 059-226-3011
公式ウェブサイト <http://www.sjnk.co.jp/>

- ★本取組みは2016年12月の発売から1年間を実施期間とします。以降はこの商品の普及状況を勘案して実施の継続を検討します。また、予告なく終了することがありますので、あらかじめご了承をお願いします。
- ★「THE クルマの保険 三重」は、「個人用自動車保険」または「一般自動車保険」に「地震・噴火・津波 車両全損時一時金特約」を付帯したプランのペットネームです。
- ★「THE クルマの保険 三重」はご加入者さまの交通安全を祈願する商品ですが、「THE クルマの保険 三重」にご加入された皆さまに事故が発生しないことをお約束するものではありません。
- ★損保ジャパン日本興亜は、特定の政治や宗教団体とは無関係であり、信仰等をお勧めすることは一切ありません。

会員好評受付中!

mint

三重インターネットサービス

ブロードバンドが未来をひろく!

mintはインターネットをトータルにサポートします。

<http://www.mint.or.jp/>

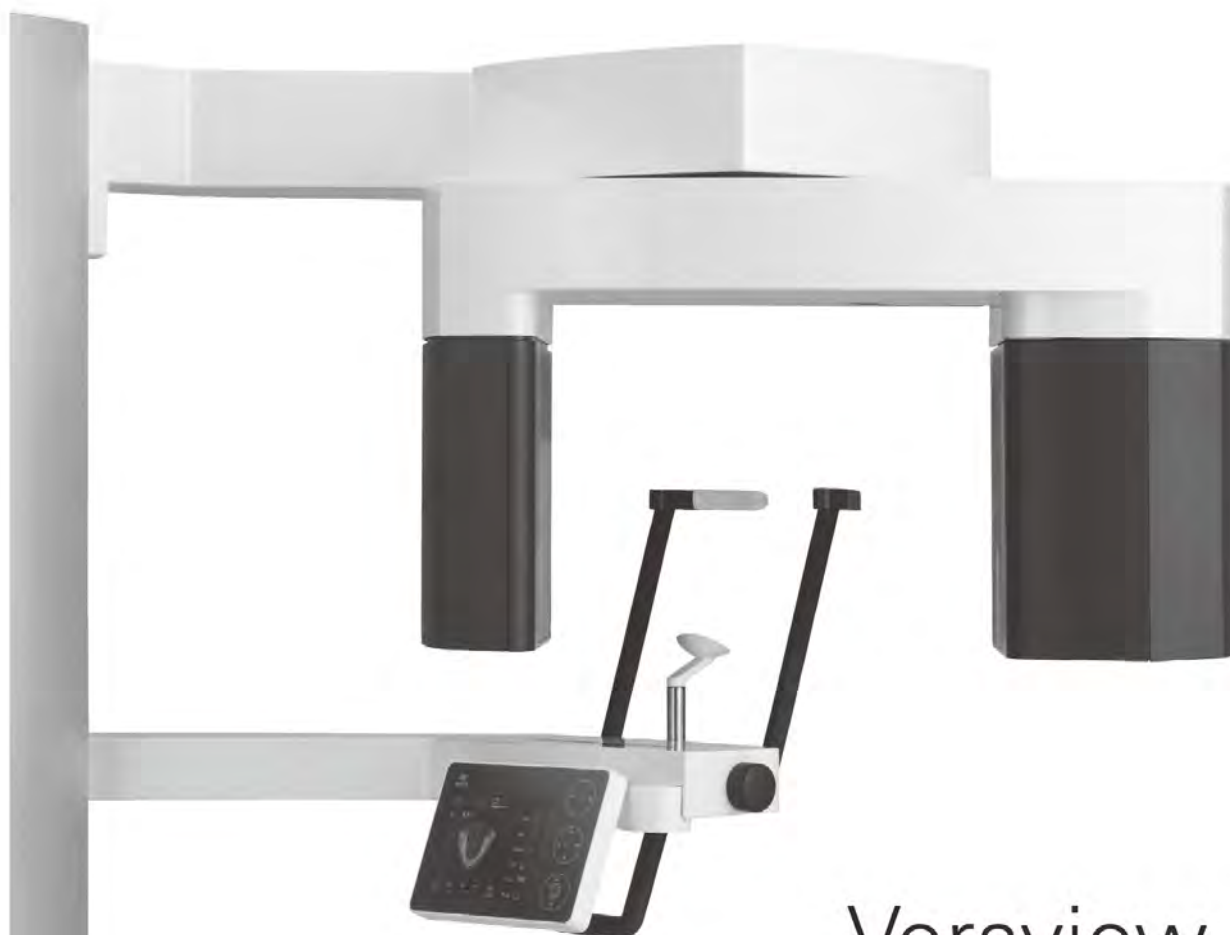
お問い合わせは

MDT 三重データ通信株式会社

TEL : 059-223-1818

E-Mail : mint@mint.or.jp

Thinking ahead. Focused on life.



Veraview X800

New Frontier of the X-ray

ベラビュー X800は、CT撮影に加えパノラマ/セファロ撮影を1台で可能にしたAll-in-oneタイプのX線診断装置。高解像度、ボクセルサイズ80 μ mのCT撮影を実現。CT撮影は、水平にX線を照射することで、アーチファクトの少ない画像を取得できます。

さらに、高精細な360度CT撮影モードとハイスピードで低照射線量の180度CT撮影モードを搭載し、診断目的に合わせた撮影を行うことができます。

Debut



発売 株式会社 MORITA 大阪本社: 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 T 06. 6380 2525 東京本社: 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 T 03. 3834 6161
お問合せ: お客様相談センター 歯科医療従事者様専用 T 0800. 222 8020 (フリーコール) 製造販売・製造 株式会社 MORITA製作所 京都市伏見区東浜南町680 〒612-8533 T 075. 611 2141
販売名: ベラビュー X800 標準価格: 9,600,000円~ (消費税別) 2016年10月21日現在 一般的名称: デジタル式歯科用パノラマ・断層撮影X線診断装置
機器の分類: 管理医療機器(クラスII) 特定保守管理医療機器 医療機器承認番号: 228ACBZX00008000
詳細な製品情報につきましては、こちらを参照ください。 http://www.dental-plaza.com/article/veraview_x800